

2023年度日本政府（文部科学省）奨学金留学生
JAPANESE GOVERNMENT (MEXT) SCHOLARSHIP FOR 2023

日 本 語 ・ 日 本 文 化 研 修 留 学 生
コ ー ス ガ イ ド
②

COURSE GUIDE OF
JAPANESE STUDIES PROGRAM
②

番号 No.	大 学 名 Name of University	所 在 地 Location	掲載ページ Page	研修コース Type of Course
国立大学 National University				
18	上越教育大学 Joetsu University of Education	新潟県上越市 Joetsu-shi, Niigata	 1	(a)
19	お茶の水女子大学 Ochanomizu University	東京都文京区 Bunkyo-ku, Tokyo	 4	(a)
20	東京外国語大学 Tokyo University of Foreign Studies	東京都府中市 Fuchu-shi, Tokyo	 7	(b)
21	東京学芸大学 Tokyo Gakugei University	東京都小金井市 Koganei-shi, Tokyo	 10	(a)
22	一橋大学 Hitotsubashi University	東京都国立市 Kunitachi-shi, Tokyo	 13	(a)
23	富山大学 University of Toyama	富山県富山市 Toyama-shi, Toyama	 16	(a)(b)
24	金沢大学 Kanazawa University	石川県金沢市 Kanazawa-shi, Ishikawa	 19	(a)
25	福井大学 University of Fukui	福井県福井市 Fukui-shi, Fukui	 22	(b)
26	岐阜大学 Gifu University	岐阜県岐阜市 Gifu-shi, Gifu	 25	(a)

番号 NO.	大 学 名 Name of University	所 在 地 Location	掲載ページ Page	研修コース Type of Course
27	静岡大学 Shizuoka University	静岡県静岡市 Shizuoka-shi, Shizuoka	 28	(b)
28	名古屋大学 Nagoya University	愛知県名古屋市 Nagoya-shi, Aichi	 31	(b)
29	三重大学 Mie University	三重県津市 Tu-shi, Mie	 34	(a)
30	京都大学 Kyoto University	京都府京都市 Kyoto-shi, Kyoto	 37	(a)
31	京都教育大学 Kyoto University of Education	京都府京都市 Kyoto-shi, Kyoto	 40	(a)
32	大阪大学 Osaka University	大阪府吹田市 Suita-shi, Osaka	 43	(a)
33	大阪教育大学 Osaka Kyoiku University	大阪府柏原市 Kashiwara-shi, Osaka	 46	(b)
34	神戸大学 Kobe University	兵庫県神戸市 Kobe-shi, Hyogo	 49	(a)

<Note>

1. 「研修コース」(Type of Course)

(a) ... 主に日本事情・日本文化に関する研修
A course intended mainly to study about Japan and Japanese culture

(b) ... 主に日本語能力の向上のための研修
A course intended mainly to improve Japanese language proficiency

2. 具体的な研修内容など、大学を選択する上で分からないことがある場合は、必ず大学へ問い合わせてください。
If you have questions about the detail of the training program, please contact the university directly.

上越教育大学 (新潟県)

日本語及び日本文化に関し、体験を通して理解を深めます。

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1) 特徴と歴史

上越教育大学は、1978年10月に創設された大学です。

初等中等教育教員に高度な学習と研究・研鑽の機会を提供することを趣旨とする大学院修士課程と初等中等教員を養成する学部を持ちます。本学の理念は学校教育に関する理論的・実践的な研究と教育実践の推進にあるため、理論的専門科目はもとより、各教科の実践的な実習科目に至るまで開講されています。

また、2008年（平成20年）4月1日の教職大学院制度発足に合わせ、大学院学校教育研究科に、専門職学位課程（教職大学院）を設置しました。教職に関する精深な学識を身につけ、教育現場に生起する問題や事象について即時的に判断し、対応する力量を有する教育者を育成することを目的としています。

2) 教員・学生数等（2022年5月現在）

教員数：147人

学生数：

学部学生：664人

大学院学生：519人



〔冬景色の上越市〕

② 国際交流の実績（2022年10月現在）

・外国人留学生在籍者数：31人（7か国）

・交流協定校：12校（9か国）

ハルビン師範大学、北京師範大学、内蒙古民族大学（中国）

韓国教員大学校（韓国）

国立嘉義大学、国立清華大学（台湾）

アイオワ大学（アメリカ合衆国）

チャナッカレ・オンセキズ・マルト大学（トルコ）

カレル大学（チェコ）

ヴォー州教育大学（スイス）

ブランデンブルク工科大学（ドイツ）

ウェストミンスター・スクール（オーストラリア）

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2022年：留学生数31人、日研生1人

2021年：留学生数37人、日研生3人

2020年：留学生数32人、日研生2人

④ 地域の特徴

上越市は、歴史的文化財が豊富であるとともに自然環境にも恵まれ、雪国を代表する都市として有名です。

東京からは、北陸新幹線を用いて約2時間で行くことができます。



〔正面から見た上越教育大学〕

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

- ・留学生一人ひとりのニーズを尊重しながら、日本語及び日本文化に関し、体験を通して理解を深めることとしています。
- ・留学生の興味・関心を考慮して、受入教員や関係教員の協力を得てカリキュラムを編成しています。

③ 受入定員

3名（大使館推薦2名、大学推薦1名）

上越市への経路



④ 受講希望者の資格、条件等

日本語・日本文化研修留学生となることを希望する者は、以下の条件を満たす者とします。

- 資格：来日時点で外国（日本以外）の大学の日本語・日本文化に関する教育を行う学部・学科に在籍する者。ただし、1年生は対象外。
- 日本語能力：日本語能力試験N2又はJ.TEST実用日本語検定C級に相当する日本語力を有する者。
- 日本語による授業を理解し、日本語の参考文献を読み、日本語でレポートを書き、口頭発表を行う能力のある者。

⑤ 達成目標

受入教員と日本語教員の指導のもとで研究を進め、一年間の研究成果を発表し、修了レポートを作成・提出します。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2023年10月上旬 ～ 2024年9月下旬
（在籍期間：2023年10月1日 ～ 2024年9月30日）

⑦ 奨学金支給期間

2023年10月 ～ 2024年9月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月：渡日
10月：10月入学留学生オリエンテーション
交通安全教室
大学祭参加
学長と入学留学生との懇談会
11月：J.TEST実用日本語検定受験
留学生が語る／留学生と語る会
世界を語ろう
12月：留学生との意見交換会
2月：短期外国人留学生の附属学校等授業参観
留学生スキーツー
3月：国際交流のつどい
4月：お花見会
4月入学留学生オリエンテーション
5月：学長と入学留学生との懇談会
7月：七夕茶会
8月：日本文化・歴史体験及び地域交流に関する研修
短期外国人留学生成果発表会
9月：短期外国人留学生修了証書授与式
帰国

⑨ コースの修了要件

以下の修了要件を満たした者には、修了証書を授与します。

- 学部開講科目の中から半期12科目（日本語補講3科目含む）以上受講し、単位を取得する。
- 受入教員と日本語教員の指導のもとで進めた一年間の研究成果を発表し、修了レポートを提出する。
また、成績証明書を発行します。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

必修科目・選択科目ともに、前期・後期各期15週開講します。授業はすべて日本語で行います。

入学後、以下の科目以外に希望する科目があれば、追加して受講することができます。受講科目については、受入教員と相談のうえ、決定します。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目・内容

学校教育学部開設科目：

- ・日本語・日本文化研究セミナーA/B
- ・日本語・日本事情、国際交流セミナー

日本語補講科目：

- ・日本語文献講読A/B
- ・日本語レポート作成A/B
- ・日本語研究発表A/B

II) 選択科目・内容

学校教育学部開設科目：

- ・日本事情：
日本国憲法／日本史研究／法律学文献講読
- ・日本文化：
書の表現と文化／書写書道／日本画表現／彫刻表現 I
- ・日本の文学：
国文学講読B／国文学演習B
- ・日本の地理・歴史：
日本史研究A／世界史研究入門

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

学校参観

本学の附属小学校・中学校を始めとして学校参観を実施しています。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

- ・特別聴講学生として、一般学生とともに受講し、単位を取得することができます。
- ・日本語・日本文化研究セミナーA/Bでは、一般学生とともにゼミナールに所属し、学びます。

～ 七夕茶会 ～



～ 語る会・町歩き ～



⑪ 指導体制

・担当教員

受入教員が、留学生一人ひとりに、研究指導及び履修指導を行います。

・日本語指導

本学教員及び外部講師による日本語指導により、言語能力から生じる不安を取り除きます。

・担当事務

研究連携課国際交流・地域連携チームの職員が、日本での生活全般の相談に応じます。

～ 雪国スキー体験 ～



■宿 舎

キャンパス内の緑に囲まれた一画に、留学生及び外国人研究者と日本人学生との混住方式による国際学生宿舎があります。

留学生用は単身用居室15室、夫婦用居室3室を用意しています。

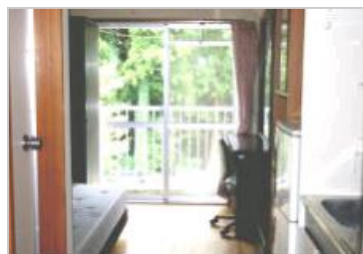
設備

単身室（宿舎費5,900円/月・共益費1,500円/月）
ミニキッチン、トイレ、給湯設備、冷暖房用空調設備、シングルベッド、片袖机、回転椅子、書棚、洋服ダンス、吊り書棚、食器棚、冷蔵庫、電気スタンド

夫婦室（9,500円/月・共益費1,500円/月）
キッチン、ユニットバス、トイレ、給湯設備、冷暖房用空調設備、シングルベッド2、片袖机、回転椅子、書棚、応接テーブル、応接イス、食卓テーブル、食卓イス、食器棚、整理ダンス、玄関収納庫、洗濯機、乾燥機、冷蔵庫、電気スタンド、クローク



[国際学生宿舎 外観]



[国際学生宿舎 室内]

■修了生へのフォローアップ

修了生に対し、本学が毎月配信している「国際交流ひろば」や「留学生ネットワーク」をととして情報提供を配信しています。

～ 短期留学生成果発表会 ～



■問合せ先

<担当部署>

上越教育大学

研究連携課 国際交流・地域連携チーム

住所：〒943-8512

新潟県上越市山屋敷町1番地

TEL : +81-25-521-3299 (直通)

FAX : +81-25-521-3621

Email : ryugaku@juen.ac.jp

<ウェブサイト>

上越教育大学ホームページ

<https://www.juen.ac.jp/> (日本語)

<https://www.juen.ac.jp/contents-e/index.html> (英語)

日研生コースガイド

<https://www.juen.ac.jp/050about/030internat/040recep>



お茶の水女子大学
Ochanomizu University

お茶の水女子大学 (東京都)

小規模大学の特性を生かし、きめ細やかな学習指導や支援が充実

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1) 特色と歴史

お茶の水女子大学は、1875年、国によって設立された日本最初の女性のための高等教育機関「東京女子師範学校」を前身としています。

すべての女性がその年齢・国籍等にかかわらず、個々人の尊厳と権利を保障され、自由に己の資質能力を開発し、知的欲求の促すままに自己自身の学びを進化させることを支援することを使命としています。

日本における女性教育の先達である本学は、国際的状況の中で、政治、経済、学術、文化をはじめ各界のオピニオンリーダーとなりうる女性を育成するプログラムを世界に示しています。

本学では、小規模大学の特性を生かし、教員一人あたりの学生数が14.85人と少ない環境で、きめ細かな学習指導や支援を受けることができます。

また、1対1で個人チューターに学修や日本での生活について相談できるほか、レポートや論文などの日本語添削サポートも提供しています。

2) 学生数等 (2022年5月1日現在)

学 部：文教育学部、理学部、生活科学部

大学院：人間文化創成科学研究科

教員数：256名

学生数：学部生 2,095名 (56名)

大学院生 823名 (152名)

(注) カッコ内は留学生数

② 国際交流の実績

30か国から208名の学部生、大学院生、研究生等が在籍し、勉学に励んでいます。

大学間交流協定校数：89校

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生 (日研生) の受入れ実績

2022年：留学生数208人、日研生4人

2021年：留学生数203人、日研生5人

2020年：留学生数221人、日研生2人

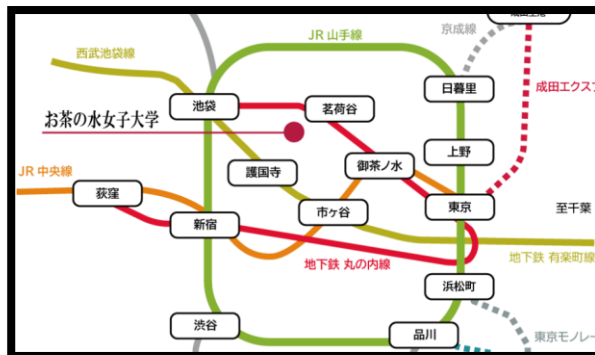
(注) 過去3年間、5月1日現在

日研生は当該年度10月受入数

④ 地域の特徴

文京区は、東京23区のほぼ中央に位置し、史跡や名所の多い歴史的な町であり、伝統的な大学や多くの学校のある町として知られています。

都内の主要駅へのアクセスが良い一方、みどり豊かで落ちついた住環境は、都内でも屈指のものとされています。



■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修
日本事情・日本文化に関する研修を主とし、補助的に日本語能力の向上のための研修を行う。

② 研修・コースの特色

母国で基本的な日本語能力を習得した学生を対象とし、将来大学院で学ぶことも視野に入れて、アカデミックな日本語力の強化を行います。

日研生のみを対象としたオリエンテーション、週1回の特別クラス及び指導教員による定期的な面談など、きめ細かい指導が特色です。

③ 受入定員

12名 (大使館推薦6名、大学推薦6名)



④ 受講希望者の資格、条件等

成績優秀で、原則として日本語能力試験N2以上を保持している者。

⑤ 達成目標

1) 修了レポート完成

週1回の特別クラスで、1年かけて自身が興味を持つテーマについて学び、修了レポートを作成します。研究の立案から資料収集、分析方法や論文執筆という研究スキルを身につけることを目指します。アカデミックな日本語力と、研究に必要なリテラシー能力を伸ばします。自力で日本語の論文を理解し、専門的内容をアカデミックな文体で表現できるようになることが目標です。

2) 日本人学生と一緒に授業の履修

「日本語」「日本文化」いずれのコース希望も受け入れますが、専門的な「日本文化」については、日本人学生向けの科目で学ぶことになります。（外国人留学生特別科目は、日本文化の基礎的な内容が中心です）留学生と日本人学生の両方を対象にした科目も開講されています。世界各国からの留学生や日本人学生と共に、日本語や日本文化、世界の諸問題について多様な視点から学びます。



⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2023年9月末頃～2024年8月31日
（在籍期間：2023年10月1日～2024年8月31日）
修了式は8月中旬を予定。※原則出席必須

⑦ 奨学金支給期間

2023年10月 ～ 2024年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月末頃～10月初旬： 渡日
10月： 授業開始・日研生オリエンテーション
11月： 大学祭

12月： ～～冬休み～～
1月： 日研生修了レポート中間発表会
2月： 授業終了（試験・レポート）
～～春休み～～
4月： 授業開始
6月： 日研生修了レポート提出
7月： 日研生修了レポート報告会
授業終了（試験・レポート）
8月： 日研生修了式
8月下旬～8月末頃： 帰国

⑨ コースの修了要件

1) 日研生クラスへの出席（2回の発表会を含む）

2) 前期・後期それぞれにおける科目履修

前期（10月～3月）、後期（4月～8月）それぞれに必須科目の1コマ（2単位相当）を含めた16単位相当以上の授業を選択・履修し、週4日以上通学することが求められます。

3) 修了レポートの提出

研修終了時に修了レポートを提出します。そのために指導教員による個別指導も行われます。

※成績証明書が発行可能です。
※早期修了は、原則としてできません。



日本文化体験きもの教室の様子

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

小規模大学の特性を生かした、きめ細やかな学習指導や支援を行っています。指導教員による個別指導の機会が豊富に設けられており、授業内外での学修を全面的にサポートする体制になって

います。各自が選んだテーマに沿って1年かけて修了研究を行います。修了研究の成果は、報告書にまとめます。発表会も2回行われます。



2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目（1コマ、90分/週・アカデミック
ジャパニーズ）

・日研生指導

週に一度日研生を対象としたクラスがあり、基本的なアカデミック・スタディ・スキルを学び、修了レポートの作成を目指します。

II) 選択科目（最低7コマ、10時間30分/週・内容は以下の通り）

・外国人留学生特別科目

日本語 I A/B～VA/B：（各学期5科目）

1科目（2単位）当たり22時間30分

総合的な日本語力を養います。少人数クラスが多く、発表やディスカッションの機会が豊富で、日本語の高い理解力と発信力が身につきます。

日本事情 I A/B ～VA/B（各学期5科目）

1科目（2単位）当たり22時間30分

日本の歴史・社会・文化について学びます。教室での学びだけでなく、東京の街に出て取り組む課題もあり、体験的に文化を理解できます。

上記とは別に、専門科目や特設日本語科目（会話、文法、読解、論文作法、漢字、日本語能力試験対策など）の授業も履修できます。少人数クラスであるため、発表の機会も多く、経験豊富な教師から丁寧なフィードバックを受けることができます。各自の学習段階に合わせて、確実にレベルアップする指導が受けられます。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

留学生向けの企画として、留学生と日本人学生との交流会、歌舞伎鑑賞教室、茶道教室、生け花教室、着付け教室等が実施されます。学内の附属小学校で児童生徒と交流する機会もあります。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

・日本人学生対象の一般科目

大学が提供する全科目の中から、各自の興味関心に合わせて授業を選択できます。最初の学期から一般科目を多く選択する留学生もいます。各自の希望に合わせた、自由な授業選択が可能です。

⑪ 指導体制

センター員である下記教員3名が、指導教員として指導に当たります。日研生の受入れ指導教員全員が大学院日本語教育コースを担当する教員でもあり、文教育学部の専門科目も担当しています。

将来、日本語教育分野での活躍を目指す学生にとっては、当該分野の専門的な指導を指導教員から受けることも可能な環境です。

森山 新 教授

(日本語教育学)

西川 朋美 准教授

(第二言語習得、バイリンガリズム)

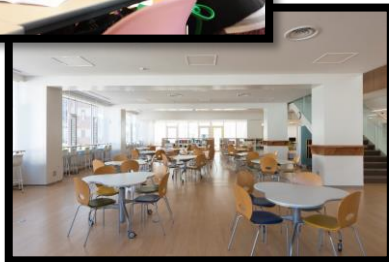
※西坂 祥平 助教

(日本語教育学)

※印が2022年度責任教員、()内は教員の専門分野



カフェテリア



図書館

■宿 舎

名 称：音羽館(学生宿舎)
所 在 地：お茶の水女子大学キャンパス内
竣 工：2022年2月
食 堂：なし(学内の食堂は平日昼夜営業)
対 象 学 生：学部学生や留学生の単身者など
入居一時金：31,680円
毎月の寮費：59,800円
(内訳：賃料48,800円、共益費5,000円、保険料500円、インターネット使用料1,000円、水道・電気使用料4,500円 ※ガス使用料別途)
設 備：
・居室…14.5 m² (個室のみ)
洗面化粧台、ユニットシャワー、トイレ、ミニキッチン、冷蔵庫、エアコン、ベッド、机、衣類収納棚完備)
・共用部分…ラウンジ、宅配ボックス、ランドリー、談話室(学習室、各階に1室)、たたみの間、キッチンスタジオ、シアタールーム、ミーティングルーム、フィットネススタジオ

※入居一時金及び初月分の寮費について、クレジットカード払いによる前払いあり

※食事については、学内の食堂を利用する学生や、他の寮生と一緒に自炊をして楽しむ学生もいます。



「安心・安全・快適」な音羽館の外観



←個室の間取り & パノラマ画像
360°ビュー
(室内が見られます。)

■修了生へのフォローアップ

本学での日研生プログラム修了後、本学大学院(日本語教育、ジェンダー研究等)で学ぶために再来日する学生がほぼ毎年います。本学でさらに専門的な勉強をしようと、再来日を目指す修了生には帰国後も相談に乗るなど、積極的に支援しています。



■問合せ先

<担当部署>

お茶の水女子大学国際課留学生担当

住所：〒112-8610

東京都文京区大塚2-1-1

TEL：+81-3-5978-5143 (直通)

FAX：+81-3-5978-5951

Email：ryunai@cc.ocha.ac.jp

<ウェブサイト>

お茶の水女子大学国際教育センター：

www.cf.ocha.ac.jp/gec-in/

お茶の水女子大学留学生関連情報：

<https://www.ocha.ac.jp/intl/studyjp/index.htm>



東京外国語大学
Tokyo University of Foreign Studies

東京外国語大学 (東京都)

多言語・多文化キャンパスにおける充実した日本語教育

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1) 特色と歴史：東京外国語大学は、世界諸地域の言語・文化・社会及び国際関係を専門とする大学として、日本の多くの大学の中で独自の地位を確立している。

国際日本学部、言語文化学部、国際社会学部、大学院総合国際学研究科（博士前期・後期課程）、留学生日本語教育センター、アジア・アフリカ言語文化研究所において、世界のほぼすべての地域にわたる言語学、語学、文学、歴史学、哲学・思想、文化人類学、社会学、政治学、経済学と幅広い分野の教育・研究が行われている。特に2019年4月開設の国際日本学部では、国際的な視野から日本を総合的に学ぶことができる。

本学の直接の前身である東京外国語学校（明治32年(1899)創立）もまた、海外に活躍する多くの人材を養成し、異文化の受容と外国語教育の向上・普及に大きく貢献してきた。その源は安政年間（「蕃書調所」）まで遡ることができる。

戦後「東京外国語大学」として新たに発足して以来、本学は「世界の言語とそれを基底とする文化一般につき、理論と実際にわたり研究教授し、国際的な活動をするために必要な高い教養を与え、言語を通して世界の諸地域に関する理解を深めることを目的とする。」の理念のもとに、国際社会の第一線で活躍する多数の有能な卒業生を社会に送り出している。

2) 教職員・学生数等（2022年5月1日現在）

学生数 国際日本学部 322名
言語文化学部1, 630名
国際社会学部1, 654名
大学院博士前期課程 325名
大学院博士後期課程 213名
教職員数 384名

② 国際交流の実績

本学の学生を世界に送り出すとともに、世界諸地域からの留学生を積極的に受け入れている。

・交流協定締結状況（2022年10月1日現在）

71か国・地域／236機関

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

1980年に日本で最初に日研生を受け入れた実績を持つ。

2022年：留学生数 591人、日本語・日本文化研修留学生 24人

2021年：留学生数 591人、日本語・日本文化研修留学生 25人

2020年：留学生数 666人、日本語・日本文化研修留学生 13人

④ 地域の特色

東京西部の緑豊かな環境。新宿・渋谷へも電車で40分程度。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

b) 主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

「多言語・多文化環境における学び」および「日本語」・「留学生向け専門科目の充実」を特色とする。科目履修については、アカデミックな日本語の能力を伸ばすための日本語科目及び、各自の専門・研究テーマに合わせた学部科目の履修が可能で、各学生の日本語のレベルに合わせた履修システムとなっている。学部科目については、日本語・日本語教育などの言語関連科目、日本文化・社会・歴史関連の科目などが履修できる。

③ 受入定員

24名（大使館推薦17名、大学推薦7名）

④ 受講希望者の資格、条件等

日本での1年間の勉強・研修に支障のない日本語運用力を持つこと。留学開始前に日本語・日本文化にかかわる興味のあるテーマを決め、1年間の研修修了時に、研修の成果となる修了レポートを執筆する意欲を持つこと。大学推薦は、JLPT N2以上、大使館推薦はJLPT N3以上が望ましい。

⑤ 達成目標

入学時にプレイスされた日本語レベルより上のレベルに到達し、各自の興味・関心に合わせたテーマで修了レポートを執筆する。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2023年10月上旬 ～ 2024年8月下旬

（在籍期間：2023年10月1日～2024年8月31日）

⑦ 奨学金支給期間

2023年10月 ～ 2024年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬	渡日・オリエンテーション
10月上旬	秋学期授業開始
12月上旬	国際交流のタベ
1月中旬	秋学期授業終了
1月下旬～3月下旬	冬学期
4月上旬	春学期授業開始
5月上旬	新入生歓迎会（外語会主催）
7月中旬	春学期授業終了および修了式
8月	帰国（2024年は8月中）

※COVID-19の感染拡大状況により変更・中止の可能性有

⑨ コースの修了要件

所定の単位を履修し、修了レポートを提出すること。日本語のレベルにより、必修の履修科目と単位数は異なるが、半期7コマの授業を履修すること。修了要件を満たしたのものには修了証書を授与する。単位取得可能。成績証明書に基づく単位互換については出身大学の判断による。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

授業は秋学期・冬学期・春学期・夏学期の4タームの区分で開講され、主となる授業は秋学期、春学期である。学生の日本語レベルに応じて「全学日本語プログラム」（全7レベル）で日本語を履修するとともに「学部科目」を日本人学生やほかの留学生とともに履修する。各自の興味・関心に応じたテーマについての研究を行い、修了レポートを提出する。詳細は以下の通りである。

2) 必須科目

- ・指導教員の下で研究を進め、修了レポートを執筆する。
- ・日本語: 400～700レベルは総合日本語(日本語レベルにより過当たりの授業数が2～5と異なる)を中心に、必要に応じて技能別科目を履修する。
- ・学部科目:
国際日本学部・言語文化学部・国際社会学部で開講されている科目の中から、各自の興味・関心及び日本語力に応じて履修する。(基本的には、日本語600レベル以上の学生のみ)
- ・修了レポートの内容
学生は各自関心のある分野についての研究を行い、国際日本学部の教員が指導に当たる。国際日本学部は、次の4領域を専門分野とする30名以上の教員を擁しているため、学生の関心に基づいた研究について、きめ細かく指導することが可能である。
 - ①日本の政治、経済、社会、歴史
 - ②日本文学、日本文化
 - ③日本語学
 - ④日本語教育学

3) 選択科目

本学では、日本を総合的に学ぶ教養日本力科目が用意されており、それらを履修することにより、日本についてより深く学ぶことができる。

【授業科目及び授業時間数】 日本語

授業科目				時間数		
				秋 学期	春 学期	計
全学 日本語 プログラム	日本語中級 400	中級総合日本語		150	150	300
		技能別日本語	文法	30	30	60
			読解	30	30	60
			聴解	30	30	60
			文章表現	30	30	60
			口頭表現	30	30	60
	日本語中上級 500	中上級総合日本語		150	150	300
		技能別日本語	文法	30	30	60
			読解	30	30	60
			聴解	30	30	60
			文章表現	30	30	60
			口頭表現	30	30	60
	日本語上級1 600	上級1総合日本語		90	90	180
		技能別日本語	文法	30	30	60
			読解	30	30	60
			聴解	30	30	60
			時事	30	30	60
			文章表現	30	30	60
	口頭表現	30	30	60		
	日本語上級2 700	上級2総合日本語		60	60	120
		技能別日本語	文法	30	30	60
			読解	30	30	60
			聴解	30	30	60
			時事	30	30	60
			文章表現	30	30	60
			口頭表現	30	30	60
ビジネス			30	30	60	

4) 見学、地域交流等の体験

日本文化を体験し見聞を広める機会が用意されている。※COVID-19の感染拡大状況により中止の可能性有

5) 日本人学生との共修等の機会

国際日本学部日本人学生は、留学生と共に学ぶことを通じて、日本を総合的に捉えることを目指している。学部の科目を履修することにより、このような日本人学生との共修が可能である。

⑪ 指導体制

国際日本学部の教員が責任をもって指導にあたる。

■宿 舎

本学敷地内に国際交流会館を設置しているが、室数が限られているため、必ずしも入居できるわけではない。入居できない場合は、学外のアパート等を紹介する。

・過去3年間の日研生の宿舎入居状況（各年度10月現在）

2022年度 本学国際交流会館 23名
民間アパート等 1名

2021年度 本学国際交流会館 25名

2020年度 本学国際交流会館 12名
民間アパート等 1名

■修了生へのフォローアップ

修了生データベース構築がなされ、毎年更新している。修了生は卒業後、就職・大学院進学が主である。大学院進学のために再来日する日研究生も多い。



国際日本学部教員

着物の着付け、華道、茶道などの
日本文化体験をしました



国際交流のタベ



「たふもにゆ」



小学校訪問

■問合せ先

<担当部署>

東京外国語大学留学生課

住所 〒183-8534

東京都府中市朝日町3-11-1

東京外国語大学留学生課

Tel : +81-42-330-5184 (直通)

Fax : +81-42-330-5189

E-mail : ryugakuseika@tufs.ac.jp

東京外国語大学のホームページアドレス

<http://www.tufs.ac.jp>

国際日本学部のホームページアドレス

<http://www.tufs.ac.jp/education/js/>

留学生日本語教育センターのホームページ
アドレス

<http://www.tufs.ac.jp/common/jlc/index.html>



東京学芸大学 (東京都)

留学生対象の授業のほか、教育学、人文・社会科学、自然科学、芸術、スポーツなどの科目が受講でき、附属学校との交流授業、伝統芸能のワークショップなどを通して、日本の社会や文化を学ぶことができます。

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

東京学芸大学は、新宿から電車で30分ほどの距離にある東京都小金井市に位置し、緑豊かで静かな環境にあります。

1949年に4つの師範学校を統合して誕生し、全国 of 教育界に多くの人材を送り出してきました。

1988年、教員養成課程に加えて、新たに教養系を設置し、教育以外の分野でも社会に貢献する幅広い人材の育成に努めています。

1996年、教科教育学を中心とする教育研究者養成を目的とした大学院連合学校教育学研究科（博士課程）を設置しました。

1998年、留学生に対する予備教育を含めた日本語・日本理解教育、修学上・生活上の指導・助言、日本語・日本文化研修留学生や教員研修留学生の研修プログラム等の業務を行うため、留学生センターを設置しました。



キャンパスの風景

② 国際交流の実績

(2022年10月1日現在)

海外の大学との協定： 63校

留学生数： 194人

(うち、日本語・日本文化研修留学生 9人)

海外の協定校で学んでいる本学学生数： 38人

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2022年：留学生数240人、日研生 9人

2021年：留学生数201人、日研生13人

2020年：留学生数196人、日研生 7人

④ 地域の特徴

小金井市は1958年10月に、東京都で10番目の市として誕生しました。都心から25Kmという位置にあり、人口10万あまりの緑ゆたかで快適な生活のできる町です。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

(a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

(1) 日本事情・日本文化に関する研修
日本理解に関する科目として「日本理解」や一般学生との協働学習を行う「多文化共修科目」等を受講し、日本の文化・社会に対する理解を深めます。

(2) 日本語能力の向上のための研修
日本語レベルに応じて必要な科目を受講し、日本語能力を高めます。

(3) 専門研究
研修生の希望、個人研究テーマ、日本語能力等を考慮して指導教員が認めた専門科目（一般学生対象授業）を受講します。

(4) 文化交流
本学の学生や地域住民との交流を深め、地域の文化活動など交流の場に積極的に参加します。たとえば、附属小学校との交流、伝統芸能のワークショップなどを行っています。

(5) 個人研究
指導教員のもとで自分の研究テーマについて研究し、その成果を、研修終了時までにレポートにまとめます。

③ 受入定員

25名（大使館推薦15名、大学推薦10名）

④ 受講希望者の資格、条件等

日本語能力試験（JLPT）N2保持が望ましいです。

⑤ 達成目標

日本語を使用して、専門分野の資料を読んだり、レポートを書いたり、発表をしたりすることができるようになることが達成目標です。また、日本の文化について広く理解することも目標としています。修了レポートを作成し報告会で発表します。

⑥ 研修期間（在籍期間）

2023年10月初旬～2024年8月上旬

修了式は8月初旬を予定（2022年は8月3日）

（在籍期間：2023年10月1日～2024年8月31日）

早期帰国は認めません。

⑦ 奨学金支給期間

2023年10月～2024年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬～10月上旬：渡日（2022年は10月）

10月： オリエンテーション
秋学期授業開始

11月： 江戸東京たてもの園見学、
附属小学校における交流

12月： 文楽鑑賞教室

1月： 防災館見学
附属小学校における交流
研究テーマの構想発表

2月： 高校生との交流

4月： 春学期授業開始

5月： 中間発表会

6月： 歌舞伎鑑賞教室

7月： レポート提出

8月： 研究発表会、修了式

8月下旬：帰国（2022年は8月末）

⑨ コースの修了要件

下記の所定の科目を履修し、研究レポートを締め切りまでに提出して、その成果を指導教員が認めた留学生については、本学学長名において修了証書を授与します。

- 1) 必修科目…日研究生特別演習（秋）、日研究生特別研究（春） 2科目
- 2) 選択必修科目…日本理解、多文化共修科目から3科目
- 3) 選択科目…日本語科目、学部開設科目
上記1)～3)から合わせて14科目以上履修
（每学期7科目以上の履修が必要です）

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

（1）研修・コース科目の特徴
附属学校との交流授業を積極的に行っています。また、留学生対象の授業の他、教育学、人文・社会科学、自然科学、芸術、スポーツなどの科目が受講できます。伝統芸能のワークショップなど、多様な文化体験に参加できます。

（2）研修・コース開設科目

I）必修科目

日研究生特別演習（秋学期） ……15コマ 30時間

日研究生特別研究（春学期） ……15コマ 30時間

特別演習は、レポート作成のための講義、テーマ・構想発表会、地域の見学や地域交流、日本文化体験の活動などを主に行います。

特別研究は、主に指導教員の元で、レポート作成の活動を行います。日本文化体験活動、中間発表会、最終発表会を行います。



淵江高校との交流

II）選択科目

- 1) 日本理解に関する科目（選択必修）
…各科目15コマ 30時間

日本理解 A～H 8科目

A, B（教育）, C（人文）, D（アニメ）, E（宗教）, F（経済）, G（自然）, H（書道）

※ 留学生を対象にした日本語で行う科目。

多文化共修科目 A～D 4科目

※ 日本人一般学生と留学生の共修科目で日本語で行う科目。（詳細は⑩（4））

- 2) 日本語科目（選択）…各科目15週 30時間
日本語（会話、講読、作文、文法、漢字など）
日本語特別演習（マンガで学ぶ日本語、ドラマで学ぶ日本語、ビジネス日本語、小説など）
- 3) 専門科目（選択）…各科目15コマ 30時間
学部開設科目（教育学、人文・社会科学、自然科学、芸術、スポーツなど）



日本科学未来館見学

(3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加できる科目及びその具体的な内容
必修の特別演習、特別研究で以下のような活動を行います。(予定)

- ・地域見学…江戸東京たてもの園、防災館、ビール工場見学、日本科学未来館など
- ・地域交流…附属小学校、都立高校との交流、
- ・日本文化体験…文楽鑑賞教室、相撲見学、歌舞伎鑑賞教室、貫井ばやし、和菓子ワークショップなど

(4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

多文化共修科目 A～D (日本語)

A「多文化社会の問題解決プロジェクト」

在日外国人問題、難民問題、セクシュアリマイノリティ、障がい者問題など広く多文化多様性の問題解決をめざすプロジェクト学習

B「多言語社会とコミュニケーション」

日本の少数言語(琉球諸語、アイヌ語、日本手話)、在日外国人(コリアン、ブラジル、難民の言語)、留学生の言語、日本の方言などを学びあいます。

C「世界の言語と文化」

世界の言語についてのプロジェクト学習

D「世界の民族と文化」

世界の民族音楽を実際に体験しながら学びます。

⑪ 指導体制

日研究生は、留学生センターの所属となります。留学生センター所属の教員が指導教員として履修や研究の指導をします。

岡 智之(2022年度日研究生担当教員)、小西 円、許 夏玲、有澤 知乃、伊能 裕晃、山出裕子



研究レポート発表会の様子

■宿 舎

渡日時に入居できる宿舎は以下の単身室の宿舎となります。家族連れでの留学の場合は民間アパートを自分で探すことになります。

○宿舎名

東久留米国際学生宿舎：単身室26室

○宿舎費・設備・通学時間等

東久留米国際学生宿舎単身室：4,700円/月

通学時間：西武線約1時間

*上記金額には光熱水費等は含まれません。

○宿舎の設備・備品

ベッド、机、椅子など



附属小学校での交流



江戸東京たてもの園見学

■修了生へのフォローアップ

フォローアップの実績

修了生が国費研究生としての留学などを希望する場合、日研究生担当教員や元指導教員など留学生センター教員が相談に応じています。2016年度は1名、2017年度は1名、2021年度は1名の元日研究生が国費留学生として本学に入学しています。

また、中国(北京)、韓国(ソウル)、タイ(バンコク)にて、修了生同窓会を開催しました。

東京学芸大学修了留学生ネットワーク

<https://www.facebook.com/GisecTokyoGakugeiUniversity>

■問合せ先

<担当部署>

東京学芸大学学務部 国際課 留学生支援係

住所：〒184-8501

東京都小金井市貫井北町 4-1-1

TEL： +81-42-329-7763 (直通)

FAX： +81-42-329-7765

Email： ryuugaku@u-gakugei.ac.jp

<ウェブサイト>

東京学芸大学ホームページ：

<https://www.u-gakugei.ac.jp>

東京学芸大学日研究生ホームページ：

<https://www.u-gakugei.ac.jp/~gisec/program01/index.html>



一橋大学 (東京都)

日本語・日本文化はもちろん、学部ゼミナールで専門的に学べます。

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

長い歴史と伝統を誇る(1875年創立)、日本で最も古い『人文社会科学の総合大学』です。伝統的な学問領域の研究だけでなく、新しい研究領域の開拓に取り組む教授陣を擁しています。また、自然環境に恵まれた美しいキャンパスを有しています。

学生数 (2022年5月現在)

商学部	1,269名
経済学部	1,212名
法学部	754名
社会学部	1,107名
学部生合計	4,342名

経営管理研究科※	491名
商学研究科※	9名
経済学研究科	237名
法学研究科	411名
社会学研究科	354名
言語社会研究科	183名
国際・公共政策教育部	126名
国際企業戦略研究科※	34名
大学院生合計	1,845名

※2018年4月より商学研究科と国際企業戦略研究科を統合し経営管理研究科を設置。2017年度以前に入学した学生は商学研究科または国際企業戦略研究科として在籍。

② 国際交流の実績

大学間交流協定数: 165 (学術交流協定)
147 (学生交流協定)
※2022年5月現在

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生(日研生)の受入れ実績

2022年: 留学生数 809人、日研生 5人
2021年: 留学生数 742人、日研生 5人
2020年: 留学生数 817人、日研生 2人

④ 地域の特徴

JR国立駅から南へ真っすぐ伸びる大学通りは幅が約44メートルもあり、まちのメインストリートです。現在、その道の両側のグリーンベルトには、桜といちょうが交互に植えられ、春には桜の花びらのカーテンがまちをピンク色に染めて、秋にはいちょうの葉が黄金色の輝きを放ちます。この景色は、新東京百景にも選ばれています。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

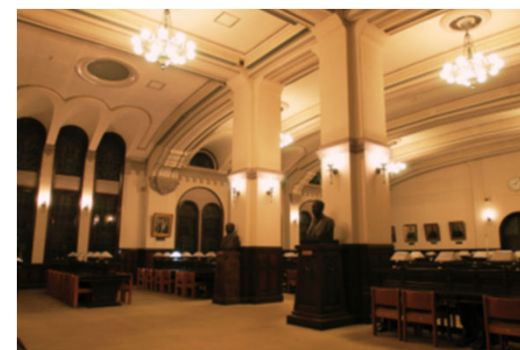
② 研修・コースの特色

- 希望者は、正規課程向けの学部ゼミナールに参加できます。
- 日本または日系企業に就職するための準備として、キャリア支援室のサービスを受けられます。

- 茶道、着物などの日本文化体験授業を実施予定です。
- 日本文化関連のクラブ活動等に参加することができます。
- 単位認定
全学共通教育科目・学部教育科目・国際交流科目の場合、各科目の合格要件を満たせば単位が認定されます。
成績は以下のとおり評価されます。
A+, A, B, C (合格) 又は F (不合格)

③ 受入定員

15名 (大使館推薦10名、大学推薦5名)



一橋大学図書館

④ 受講希望者の資格、条件等

日本語力上級レベルで、大学学部3,4年次に在籍する学生を対象とします（原則として、日本語能力試験N1レベル相当以上）。

社会科学の基礎知識を持つ留学生にとって、日本語・日本文化だけでなく、幅広い知識が修得できるプログラムです。修了レポートのテーマとして、各自の掘り下げたいテーマを抱いて参加することが望ましいです。

⑤ 達成目標

15,000字程度の修了レポートを執筆し、その内容についてプレゼンテーションを行います。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2023年8月下旬～2024年8月中旬頃
（在籍期間：2023年9月9日～2024年8月31日予定）
※奨学金の支給は10月開始ですのでご注意ください。

⑦ 奨学金支給期間

2023年10月～2024年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

8月下旬：渡日・入寮・オリエンテーション
9月中旬：秋冬学期授業開始
1月：秋冬学期授業終了
4月：春夏学期授業開始
7月末：春夏学期授業終了
7月：修了レポート発表会・修了式
8月中旬：退寮・帰国

⑨ コースの修了要件

1) 必修科目「Lecture for MEXT Japanese Studies Students I・II」（合計4単位）を修得すること。

2) 春夏学期及び秋冬学期それぞれにおいて12単位以上を履修すること。また、各学期において1週間につき6コマ以上を履修すること。

3) 日研修修了レポートを作成すること。

成績証明書は、各学期の成績発表日以降に発行することが可能です。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴
日本語力を高め、日本研究を進めるための手厚い指導が受けられます。

2) 研修・コース開設科目

I) 必修科目

Lecture for MEXT Japanese Studies Students I・II
（日研修ゼミナール、2コマ4単位）

日研修対象。体験授業のほか、日研レポート作成に向け、討論形式の授業を行います。

II) 選択科目

Seminar for MEXT Japanese Studies Students A,B
（2コマ4単位）

日本語日本文化研修修了レポートの完成に向けて、各自のテーマについての考察を深めます。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

Explore Japan（工場・企業等見学）、着物体験、
鎌倉ツアー、アート探検&マンガ・ワークショップ

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

日本語、日本文化、日本史等を正規学部生と共に学べる科目

○全学共通教育科目
日本語研究入門、日本文化論、日本文学 等

○学部教育科目
社会と文化、日本社会史総論 等

○国際交流科目
Japanese Management, Japanese Art etc.

ゼミナールへの参加も可能です。

○学部ゼミナール（選択）
正規学部生とともに学ぶ学部ゼミナール

○如水ゼミ
一橋大学を卒業し、各分野で活躍するビジネスリーダーを講師とする授業

各科目のシラバスはオンラインで公開されています。

<https://syllabus.cels.hit-u.ac.jp/>

5) その他の講義、選択科目等

日本語教育科目（選択、レベル別）

○一般日本語科目：速読、学術文章表現、
学術口頭表現、
近代文語文講読 等

○専門日本語科目：経済の日本語上級、
法の日本語 等

○日本事情科目：外国人留学生のための日本事情

⑪ 指導体制

国際教育交流センター日本語教育担当教員が責任をもって指導し、また、生活面は国際教育交流センター留学生相談部門教員が担当します。
なお、学部ゼミナールに所属し専門科目教員の指導を受けることができる場合もあります。
(受け入れ責任者 国際教育交流センター長)

<http://international.hit-u.ac.jp/cgee/advising/index.html>



修了式にて



クラブ活動：弓道部にて

■宿 舎

日本語・日本文化研修留学生は大学宿舎に優先的に入居できます。小平にある一橋大学国際学生宿舎では、日本人・留学生が一緒に生活しています。

国際学生宿舎

〒187-0045

東京都小平市学園西町1-29-1（小平キャンパス内）



一橋大学国際学生宿舎



国際学生宿舎で行われた
ウェルカムパーティー

■修了生へのフォローアップ

日本語・日本文化研修留学生データベースに修了者の連絡先等を蓄積し、ネットワーク構築を図っています。また、コース修了後でも、成績証明書等の発行が可能です。



フィールドワーク
(鎌倉ツアー)

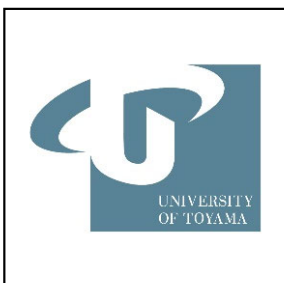
■問合せ先

<担当部署>
一橋大学学務部教務課（教務第四係）

住所： 〒186-8601
東京都国立市中2-1

TEL： +81-42-580-8163（直通）
FAX： +81-42-580-8105
Email： edu-gs.g3@ad.hit-u.ac.jp

<ウェブサイト>
一橋大学国際教育交流センターホームページ
<http://international.hit-u.ac.jp/index.html>
一橋大学ホームページ
<http://www.hit-u.ac.jp/index.html>



富山大学 (富山県)

一人ひとりにあったカリキュラム, 日本人とともに学ぶ専門科目。

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

本学は、2005年10月に富山大学（1949年設立）、富山医科薬科大学（1975年設立）及び高岡短期大学（1983年設立）の3大学が統合した、幅広く豊かな教育・研究施設を有する国立の総合大学である。2022年5月現在、学生数9,121人（学部生及び大学院生）である。また、学術交流協定を32か国・地域（アメリカ合衆国、イギリス、エジプト・アラブ共和国、オーストラリア、タイ王国、大韓民国、中華人民共和国、マレーシア、ロシア連邦など）141機関と結び、積極的に留学生を迎え入れており、国際機構を中心に受入れ体制の整備も進んでいる。

学 部：人文学部、教育学部、経済学部、理学部、医学部、薬学部、工学部、芸術文化学部、都市デザイン学部
大 学 院：人文社会芸術総合研究科、総合医薬学研究科、理工学研究科、持続可能社会創生学環、医薬理工学環、生命融合科学教育部、医学薬学教育部、理工学教育部、教職実践開発研究科

② 国際交流の実績

大学間交流協定校：18か国・地域42機関
(2022年5月現在)

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2022年：留学生数266人、日研生6人
2021年：留学生数297人、日研生5人
2020年：留学生数313人、日研生7人

④ 地域の特徴

富山県は、3000m級の北アルプス連峰を望み、日本海に面する自然に恵まれたところである。地理的には日本のほぼ中央に位置し、四季の移り変わりがはっきりしており、冬の雪景色も美しい。世界遺産「五箇山」の集落、全国的に有名な民謡「越中おわら節」など興味深い文化を育む場所でもある。

富山大学のある富山市は県庁所在地であり、人口約41万人をかかえる近代的な都市である。北陸新幹線により、東京へは約2時間で移動が可能である。また、市内には富山空港（東京まで約1時間）がある。水と空気と海産物がおいしく、文化的施設の整っている便利なおくとして、全国的に住みやすい街の最上位にあげられている。



富山大学
(五福キャンパス)

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

- 主に日本事情・日本文化に関する研修
日本事情・日本文化に関する研修を主とし、補助的に日本語能力の向上のための研修を行う。
- 主に日本語能力の向上のための研修
日本語能力の向上のための研修を主とし、補助的な日本事情・日本文化に関する研修を行う。

② 研修・コースの特色

留学生を対象とした日本語・日本文化に関する授業科目と、人文学部、教育学部、経済学部で開講されている幅広い日本語・日本文化に関する専門科目の中から、各自の興味とレベルにあわせて授業科目を履修する。それと同時に、指導教員（人文学部又は教育学部）からの個人指導を随時受ける。個人指導の中で各々に研究課題を定め、修了レポートにまとめる。

③ 受入定員

8名（大使館推薦4名、大学推薦4名）
（人文学部4名、教育学部4名）
*各学部にも所属する。

④ 受講希望者の資格、条件等

このコースを受講希望する者は、以下の要件を満たす者とする。

（学歴）

渡日及び帰国時点で外国（日本国以外）の大学の学部在学中、日本語・日本文化に関する分野を専攻している者

（日本語能力）

国際交流基金及び日本国際教育支援協会による日本語能力試験N3以上の日本語能力を有する者
あるいは、これに相当する学習歴等を有する者

⑤ 達成目標

- 各自が立てたカリキュラムを履修し、研究計画を進め、日本語で修了レポートを完成させる。
①a)は必須、①b)は選択
- 国際交流基金及び日本国際教育支援協会による日本語能力試験N1相当の日本語能力を身につける。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2023年9月下旬 ～ 2024年8月下旬
（在籍期間：2023年10月1日 ～ 2024年8月31日）

⑦ 奨学金支給期間

2023年10月 ～ 2024年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬：渡日
（2021年は10月25日～11月20日）

10月～8月：実地見学旅行
（日本の文化や歴史を学ぶ機会。
各学部主催）
日本人学生による支援交流活動
（個別学習支援・交流会・パーティーなど）

この他にも地域の協力を得て、ホームステイ／ホームビジットプログラム、スキーツアー、おわら踊り・民謡・ゆかた着付・茶道体験、新春パーティー、お花見、バーベキュー大会、ボウリング大会などが実施されており、地域の人々との交流の機会も提供されている。

8月下旬：帰国（2022年は8月11日～31日）
9月：修了証交付

⑨ コースの修了要件

- 1) 所定の時間数（秋期・春期各240時間以上、合計480時間以上）を履修し合格しているか、修了レポートを提出しているか等を当該組織が判定の上、修了証を交付する。
- 2) 受講した科目で出席・試験などの基準を満たした者には、修得した科目及び時間数を記した履修証明書を発行する。
- 3) 指導教員（人文学部又は教育学部）による個人指導の中で各々の留学生の研究課題を定め、その結果を日本語で修了レポートにまとめ提出させる。
ただし、①b)の学生は免除されることがある。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

各自の関心とレベルにより立てた個別カリキュラムをもとに履修し、研究計画を進め、日本語で修了レポートを完成させる。
授業で使用する言語は日本語である。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目（コマ数、時間数）・内容

本大学の日研生プログラムは、各々のレベルに沿ったカリキュラムを履修することになっているので、必須科目は設けていない。

II) 選択科目（コマ数、時間数）・内容

[a] 日本語・日本文化に関する授業科（2022年度現在）
最新の情報はホームページでご確認ください。

総合日本語コース（上級）			総合日本語コース（中級）		
科目名	授業時間数		科目名	授業時間数	
	秋	春		秋	春
読解C	60	30	文法・表現Ba	60	60
文法C	60	60	文法・表現Bb	60	—
作文C	30	—	文法・読解Ba	60	60
聴解C	30	30	文法・読解Bb	60	60
会話C	30	30	文法B	—	60
漢字C	30	30	作文B	—	30
表現技術C	—	30	聴解・会話B	30	30
日本文化C	30	30	漢字B	30	30

[b] 教養教育科目（外国人留学生用）

科目名	授業時間数	
	秋	春
日本語	60	60
日本事情	30	30
異文化理解	—	30

[c] 専門科目（正規学生用）

各学部で開講される幅広い専門科目より授業科目を選択する。以下に各学部の日本語・日本文化に関連する科目のある専門分野を紹介する。

<人文学部>

日本語・日本文化に関する分野：
人間学、日本史、人文地理学、文化人類学、国際関係論、言語学、日本語学、日本文学など
（*詳しくは人文学部ウェブサイト参照）
<https://www.hmt.u-toyama.ac.jp/>

<教育学部>

日本語・日本文化に関する分野：
教育学、日本語学、日本文学、日本地理、日本史、福祉、政治学、芸術、スポーツなど
（*詳しくは教育学部ウェブサイト参照）
<http://www.edu.u-toyama.ac.jp/>

<その他>

日本語・日本文化に関連のある経済学部授業（経済学、経営学、経営法学）や教養教育科目も履修できる。

* 専門科目及び「日本語」「日本事情」「異文化理解」は、Webシラバス（授業案内）に掲載。
<http://syllabus.adm.u-toyama.ac.jp/syllabus/>

・ 総合日本語コース
<http://www.ier.u-toyama.ac.jp/program/timetable.html>



日本人学生主催
「ウェルカムパーティ」



日本事情 「書道」



実地見学旅行

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加できる科目及びその具体的な内容
なし。(ただし、見学、地域交流等は前述の⑧「研修・年間スケジュール」で体験することができる。)

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容
日本語・日本文化に関する、より専門性の高い学部の専門科目を日本人の学生と一緒に受ける。

⑩ 指導体制

留学生の志望する専攻分野の指導教員と、学部の留学生担当教員及び国際機構教員が協力して、学業及び生活面の個別指導を行う。

■宿 舎

大学には、国際交流会館がありますが、部屋数に限りがあります。国際交流会館に入居できない場合は、大学が宿舎を紹介します。(大学の周辺にはアパートがたくさんあります。)

・国際交流会館(五福)の概要

部 屋 数 : 単身室 34室

設備備品 : 電磁調理器付キッチン、バス、
トイレ、エアコン、ベッド、机、
いす、冷蔵庫など

その他設備 : 居室でのインターネット接続が可能(有料)



五福国際交流会館

■修了生へのフォローアップ

・富山大学日研生修了後のキャリアパス(一例)

☆母国の大学で日本語を教える。

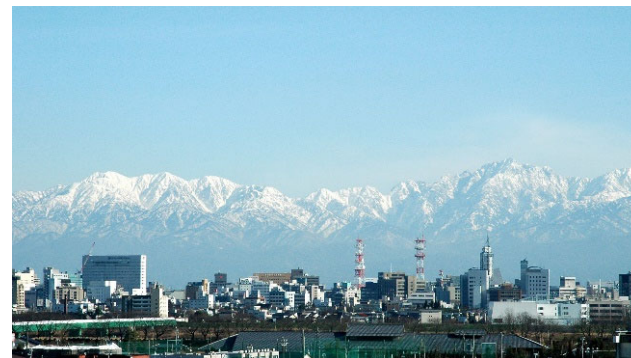
☆JETプログラム国際交流員として日本で働く。

☆富山大学大学院やその他日本の大学院に進学。

☆日本企業(母国・日本国内)で働く。

・修了後のネットワーク

☆Facebookによって近況を報告している。



大学から見た立山連峰

■問合せ先

<担当部署>

富山大学国際部留学支援課

住所 : 〒930-8555

富山県富山市五福3190

TEL : +81-76-445-6105(直通)

FAX : +81-76-445-6039

Email : ryugaku@adm.u-toyama.ac.jp

<ウェブサイト>

富山大学ホームページ

<https://www.u-toyama.ac.jp/>

富山大学国際機構ホームページ

<http://www.ier.u-toyama.ac.jp/>

富山大学国際機構日本語プログラム

<http://www.ier.u-toyama.ac.jp/program/course.html>



金沢大学 (石川県)

日本社会・文化の研究、日本伝統文化体験、日本人学生との合同調査などの「日本探求」を通じた実践的日本語力が習得できます。

■大学紹介

① 大学の特徴及び概要

1) 特色と歴史

金沢大学は、1862年の加賀藩種痘所を源流とし、1949年に新制の総合大学として設立されました。現在4学域、20学類 (1)融合学域：先導学類、観光デザイン学類、スマート創成科学類※1 (2)人間社会学域：人文学類、法学類、経済学類、学校教育学類、地域創造学類、国際学類、(3)理工学域：数物科学類、物質化学類、機械工学類、フロンティア工学類、電子情報通信学類、地球社会基盤学類、生命理工学類 (4)医薬保健学域：医学類、薬学類、医薬科学類、保健学類) 及び、7研究科(人間社会環境研究科、自然科学研究科、医薬保健学総合研究科、先進予防医学研究科、法務研究科、教職実践研究科、新学術創成研究科)から構成されている総合大学として、幅広い分野での教育・研究活動の拠点となっています。金沢大学は、全国の大学に先駆けて、1956年から外国の大学との交流協定を締結して、学術文化の国際交流並びに、留学生交流を推進してきました。 ※1 令和5年4月設置

2) 教員・学生数等 (2022年5月1日現在)

【教員数】1,332名、【学生数】10,160名(学域・学部生：7,757名、大学院生：2,370名、その他、非正規生：218名)

② 国際交流の実績 (2022年5月1日現在)

交流協定校数 : 306機関 (52ヶ国、1地域)
大学間交流協定：217機関 (52ヶ国、1地域)
部局間交流協定：89機関 (27ヶ国、1地域)
留学生在籍数 : 643名

日本語・日本文化研修生合計受け入れ数：
346名 (令和2年度受入れの26期生を含みます)

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生(日研生)の受入れ実績

	受入れ実数
2022年度	留学生数643名、日研生9名
2021年度	留学生数636名、日研生8名
2020年度	留学生数618名、日研生9名

④ 地域の特徴

金沢市は古くからの城下町で、今まで大きな災害に遭わなかったため、昔の建物などが多く残っています。伝統工芸、古典芸能の盛んな、文化の香り高い日本的な雰囲気を持ち、四季の移ろいを実感できる街です。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

(a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

金沢大学日本語・日本文化研修プログラムは参加学生の日本語能力ならびに研究能力の向上、及び日本社会・文化に対する理解を促進することを目的とした全学習を日本語で行う1年間のプログラムです。

③ 受入定員

15名 (大使館推薦：5名、大学推薦：10名)

④ 受講希望者の資格、条件等

本プログラムの受講を出願する者は、以下の要件を満たす者としてします。

日本語能力：日常生活に必要な日本語能力(日本語能力試験N2合格程度)を有し、平易な文章の読み書きができる者

所属学部・学科：海外の大学において、日本語・日本文化に関する分野を専攻している者

学年：海外の大学において3,4年次に在学中の者

学習姿勢：日本研究に対し意欲的であり、1年間積極的な姿勢で本コースの学習に専念する意志を有する者

⑤ 達成目標

修了時点で日本語能力検定N1レベルの日本語力、ならびに大学院進学に必要な研究能力の習得を目指す。

⑥ 研修期間 (在籍期間)

2023年9月下旬～2024年8月下旬
(2023年10月1日～2024年8月31日)

⑦ 奨学金支給期間

2023年10月～2024年8月



兼六園

⑧ 研修・年間スケジュール

授業期間：10月～2月(秋学期)

4月～8月(春学期)

修了研究(発表練習, 論文作成)期間：8月1日～8月31日

9月下旬：渡日

9月下旬：開講式、オリエンテーション

10月：里親対面式

11月：里親とのバス旅行

11月または12月：留学生懇談会

12月：修了研究構想発表会

4月：修了研究中間発表会

8月初旬：修了研究発表会

8月中旬：論文提出締切

8月下旬：修了式

8月下旬：帰国



授業の様子

⑨ コースの修了要件

必修授業科目の履修・合格、並びにプログラム終了時の修了研究の口頭発表及び論文提出が修了要件です。本研修プログラム修了者に修了証書を授与します。また、履修した授業科目、成績評価及び単位数が記載された成績証明書を交付します。

本プログラムの構成は次のとおりです。なお、1科目(2単位)は15コマ(1回90分)の講義から成ります。

必修授業科目	単位数	
	秋学期	春学期
日本語	20	
日本文化演習Ⅰ	2	2
日本文化演習Ⅱ	2	2
日本文化・社会学習	2	選択
調査実習	2	選択
修了研究演習	2	2
修了研究論文及び研究発表	—	4
合計	40	



能登旅行

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

本プログラムでは、修了研究論文を最も重要なカリキュラムとして位置付けています。修了時点で、参加学生は大学院に進学するために必要な研究能力を身につけることを目指します。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目

日本語科目(秋・春学期 合計150コマ)

レベル別日本語、漢字及び技能別日本語の授業

日本文化演習Ⅰ(秋・春学期 各15コマ)

学内外の専門家による日本語・日本文化についての講義

日本文化演習Ⅱ(秋・春学期 各15コマ)

演習形式による発表・ディスカッション

日本文化・社会学習(秋学期 15コマ、春学期は選択)

金沢の豊かな伝統文化の体験、および現代日本社会についての学び

調査実習(秋学期 15コマ、春学期は選択)

研究方法論や日本語によるプレゼンテーションスキルの習得

修了研究演習(秋・春学期 各15コマ)

研究方法の習得

修了研究論文及び研究発表(春学期 30コマ)

口頭研究発表、修了研究論文の提出

II) 選択科目

正規授業科目の履修(秋・春学期)

学部正規生向けに開講している一般授業科目の履修

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

「伝統工芸と職人の技」

北陸地域の漆工芸や和紙を鑑賞しながら、職人の技と精神を実体験します。

「現代アートとデザイン」

ワークショップやアーティストとの対話、21世紀美術館見学などを通じて、受講生の金沢の現代アートとデザインに関する理解を深めます。

「日本の社会と伝統文化」

金沢の伝統美術・工芸の文化体験を通じ、何百年もの間、匠達の手によって代々継承されてきた技能の一端を垣間見ることで、日本文化に対する多角的な観点を形成します。

「ユネスコジオパークとエコパーク」

白山麓の地域をフィールドにし、地域の人々の伝統的な生活様式を体験したり、地域課題や地域再生に向けての様々な取り組みを紹介します。

「サービス業や福祉施設にみるおもてなしの心」

金沢の料亭や保育園、高齢者介護福祉施設などを訪問し、その業務の一部を学生にも体験してもらいます。

「日本と金沢の建築・都市、これまでとこれから」

金沢をはじめ日本の建築とまち、人の営みとまちの関連性について理解を深め、建築・都市と文化・経済・歴史の相互関係を理解します。



加賀友禅体験

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

「調査実習」

日本人学生と合同で小グループを形成し、比較文化的な観点から日本社会・文化についての合同調査・研究を行います。

「日本文化演習Ⅱ」

この科目は日本文化演習Ⅰで扱った各テーマに関して、日本人学生も交えて演習形式による発表・ディスカッションを行います。

⑪ 指導体制

指導教員：

山本 洋

(国際機構・准教授、専門：歴史学、文学)

本プログラムの参加学生は国際機構に所属し、プログラム担当教員が指導教員として学生の学業・生活指導に当たります。研究指導、発表及び論文作成指導を定期的に個別・全体で実施します。なお、様々な専攻の学生の受入を可能にするために、研究指導を行う際に、人間社会学域等のその専門に応じた教員の協力を得ることもあります。日本語担当教員及び日本文化科目の講義担当の学内教員の合計数は約30名にも上ります。

■宿 舎

本プログラムの参加学生は以下のいずれかの宿舎に入居できます。

1) 金沢大学国際交流会館

(キャンパス内にある金沢大学の留学生及び外国人研究者用の居住施設。単身者に限ります)

寄宿料，光熱水費：月額約3万円

2) 金沢大学学生留学生宿舎「先魁」

(キャンパス内にある金沢大学の学生及び留学生及の居住施設。単身者に限ります)

寄宿料，光熱水費：月額約3万円

3) 金沢大学学生留学生宿舎「北溟」

(キャンパス内にある金沢大学の学生及び留学生及の居住施設。単身者に限ります)

寄宿料，光熱水費：月額約3万8千円

■修了生へのフォローアップ

本プログラムの修了生は、所属大学に戻り学位を取得後、大半が大学院へ進学します。さらに大学院進学者の約半数程度は、本学もしくは日本国内の他大学の大学院へ進学しています。その他、日本で日本企業に就職したり、母国で日系企業に就職するなど、ほとんどの修了生が日本とかかわりのある仕事に就いています。

■問合せ先

<担当部署>

金沢大学国際部留学企画課留学支援係

〒920-1192 石川県金沢市角間町

TEL：+81-76-264-5237

FAX：+81-76-234-4043

E-mail：st-exch@adm.kanazawa-u.ac.jp

<ウェブサイト>

金沢大学国際機構：

<http://kuglobal.w3.kanazawa-u.ac.jp/sie/>

日研ホームページ：

<http://kuglobal.w3.kanazawa-u.ac.jp/sie/program/nikken/>

金沢大学：

<http://www.kanazawa-u.ac.jp/>

<担当教員連絡先>

山本 洋 准教授

E-mail：yama@staff.kanazawa-u.ac.jp

福井大学 (福井県)

充実した個別指導と学生のニーズに即したカリキュラム

■大学紹介

① 大学の特徴及び概要

1) 概要

福井大学は、教育学部、医学部、工学部、国際地域学部、及び大学院福井大学・奈良女子大学・岐阜聖徳学園大学連合教職開発研究科、大学院医学系研究科、大学院工学研究科、大学院国際地域マネジメント研究科の4研究科からなる。

【文京キャンパス】



2) 教員・学生数 (2022年5月時点)

学生数 (正規生) : 学部生 3,978名

大学院生 964名

教員数 : 686名

② 国際交流の実績

留学生在籍数 : 131名 (26カ国・地域)

学術交流協定数 : 97 (大学間)、65 (部局間)

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生 (日研生) の受入れ実績

2022年 : 留学生数131人、日研生1人

2021年 : 留学生数140人、日研生1人

2020年 : 留学生数174人、日研生2人

④ 地域の特徴

福井市は、日本のほぼ中央に位置し、美しい自然と豊かな文化遺産に恵まれたところである。日本海に面し、古くは大陸諸国と都を結ぶ玄関口として重要な位置を占め、その長い歴史と伝統、そして四季折々の変化に富んだ美しい自然は、日本の典型的な風情を漂わせている。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

b) 主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

- ・主に日本語教育科目を履修し、日本語能力を向上させ、日本文化について理解を深める。
- ・本学の他の留学生や日本人学生と一緒に共通教育科目及び専門科目を履修し、単位の修得を目指す。
- ・授業科目 : 日本語・日本文化研修留学生のための特別な授業科目はない。
- ・履修科目については、成績証明書を発行する。
- ・修了要件を満たした場合、修了証書を発行する。

③ 受入定員

4名 (大使館推薦3名、大学推薦1名)

④ 受講希望者の資格、条件等

このコースを受講希望するには、以下の条件を満たすことが望ましい。

- ・日本語能力検定試験N2以上。
- ・日本語・日本文化・教育などに関心があり、関心のある分野での研究学習歴があること。

⑤ 達成目標

日本語に必要な情報を集める情報収集力、自分の成果をわかりやすく他者に提示する発信力など、実用的な日本語の運用力を身につける。

⑥ 研修期間 (在籍期間)

2023年10月1日～2024年9月30日

修了式は9月中旬予定



⑦ 奨学金支給期間

2023年10月 ～ 2024年9月

スキー旅行

⑧ 研修・年間スケジュール

9月中旬 渡日 (渡日予定日は9月24-26日頃)

9月下旬 オリエンテーション

10月1日 後期 (秋学期) 授業開始

1月 留学生との交歓会

1～2月 留学生向けスキー旅行

4月上旬 前期 (春学期) 授業開始

5月中旬 大学祭

8月 サマーキャンプ

9月下旬 帰国 (帰国予定日は9月20-25日頃)

その他、各種学生イベントを実施している。また、地方自治体や民間団体主催の見学会・交流活動等も随時実施されている。

- ・着付け・茶道体験
- ・能楽体験講座
- ・田植え・稲刈り体験・収穫祭等



高須町での稲刈り



能楽体験講座

⑨ コースの修了要件

- ・下記⑩の掲載科目から11科目かつ合計20単位以上を修得すること。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

授業は原則として、前期・後期各15週開講する。

以下の科目から、必ず各学期7科目以上履修すること。

各科目の内容は変更となる場合がある。

2) 研修・コース開設科目

I) 必修科目・内容

必修科目

2科目4単位修得すること。（各2単位/30時間）

【応用日本語Ⅰ（上級）（春学期）】

日本語によるインタビュー活動を日本人学生や地域の人を対象に行う。この活動を通じて、話す、聞く、のような日本語能力を伸ばすだけでなく、日本や日本人に対する理解を深めることを目指す。

【応用日本語Ⅱ（上級）（秋学期）】

グループで取材に行き、それを新聞の形にまとめる。その活動を通じて、日本語による情報収集を行う技術を身につけたり、わかりやすい日本語で情報を発信したりする。自分の興味のあることや独自の視点を掘り下げるにより、それらについて理解を深める。さらに、ほかの学生と一つのことについて話し合い、一緒に活動することによって、お互いの見方を知り、コミュニケーション能力を磨く。



「応用日本語Ⅱ」授業風景

選択必修科目・内容（日本語科目）

日本語プレースメントテストの結果に基づき、日本語レベルに応じて選択すること。以下の科目から、3科目3単位以上修得すること。（各1単位/30時間）

【日本語A（中上級）（春学期）】

内容を整理しながら話したり、相手を意識して伝えることを目指し、様々なテーマ、状況を設定して、話す練習をする。さらに、相手の話を整理しながら聞き、それに適切な応答ができるようになる練習も行う。

【日本語B（中上級）（秋学期）】

依頼、許可など、それぞれの場面で、相手に応じた表現を使って、相手との関係を維持し、目的を達成できるようにする。

【日本語C（中上級）（春学期）】

大学生活に必要なメールやレポートの書き方の基礎を学ぶ。最初の2、3週間で日本語でのメールの書き方を学び、その後、レポートを書くために必要な、客観的な文章の書き方、根拠の示し方、意見の述べ方などを学ぶ。

【日本語D（中上級）（秋学期）】

論理的な文章の書き方やレポート作成に必要な知識や技術を学ぶことを目的とする。具体的な文章例を通して理解を深め、練習や課題を通して書く能力の向上をめざす。

【日本語E（上級）（春学期）】

フォーマルな場面の議論において、正確に自分の考えや意見を表現し、考えと考えの間の関係を明確にしながら、活発な議論に参加できるようになる。その場にふさわしい丁寧さでコミュニケーションができる。

【日本語F（上級）（秋学期）】

講義やゼミなどで自分の意見、主張等をプレゼンテーションソフトを用いながら、わかりやすい日本語で論理的に示すことができるようになるための練習を行う。

【日本語G（上級）（春学期）】

長く複雑な文章を繰り返し読むことにより、その内容を詳細に理解できるようになる。また、補助的な視点、理由、関連する事例を詳細に加えて、特定の視点からの論を展開し、ある程度の長さの文が書けるようになる。

【日本語H（上級）（秋学期）】

日本語の一般書を読んで、その内容をレジュメの形にまとめて、わかりやすく他者に報告する。それをもとに話し合いながら内容についての理解を深め、その上で自分の意見をミニレポートとしてまとめる。学期の最後には総まとめのレポートを執筆する。

選択必須科目・内容（共通教育科目）

以下の科目から、2科目4単位以上修得すること。（各2単位/30時間）

【日本事情（春学期/秋学期）】

福井県には東尋坊などの観光名所や越前焼などの名産品がある。この授業ではこうした福井県の文化を取り上げて、日本語による講義と現地での体験学習を通して、福井県の文化についての理解を深める。



縄文博物館の見学



「日本事情」体験学習にてかまぼこ作り

【日本の文化（春学期/秋学期）】

福井市内の博物館や美術館、庭園（養浩館庭園）などの地域の文化施設と連携し、博物館の展示品の見学や庭園の散策などの校外学習を取り入れ、日本語による講義と校外学習の双方から日本の文化について学習する。

【異文化コミュニケーション入門（秋学期）】

【多文化共生の取組と課題（春学期）】

国境を越えて多面的な交流が進むグローバル化時代には、異なる価値観や世界観を互いに理解し、認め合い、互いが協力して諸問題を解決し、仕事を組み立てられる人材が求められる。

【留学生のための日本文学（春学期/秋学期）】

日本語で書かれた現代小説の読解を中心に、小説のテーマやそこから派生するトピックについても学生間で日本語で話し合う。

選択必修科目・内容（専門科目）

所属学部の専門科目から各学期2科目選択して修得すること。

II) 選択科目・内容

選択科目（共通教育科目・専門科目）

以上の科目に加え、希望によりその他の共通教育科目及び他学部の専門科目の中から適宜履修できる。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容
上記の科目のうち「日本事情」及び「日本の文化」が該当。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容
上記の科目のうち、「異文化コミュニケーション入門」及び「多文化共生の取組と課題」が該当。

⑪ 指導体制

1. 語学センター日本語教育部	プログラム担当
膽吹 覚	（語学センター 准教授）
桑原 陽子	（語学センター 准教授）
佐藤 綾	（語学センター 准教授）



若狭塗り箸
研ぎ出し体験



三方五湖

2. サポート体制

チューター：日本人学生や先輩留学生が、渡日当初の種々の手続きの手助けや、キャンパス内の案内等、身近な相談相手となり留学生をサポートする。

U-PASS (University Peer Academic Support Service) : 学生チューターによる日本語学習サポートが受けられる。



U-PASSでの
指導風景

■宿 舎

本プログラムの学生は以下のいずれかの部屋に入居することができる。

○入居期間：1年間

○入寮費： 20,000円

○共益費： 3,000円/月

（水道光熱費は別途）

（インターネットは別途契約）

【福井大学留学生会館】

・居室A（寄宿料：14,600円/月）

・居室B（寄宿料：17,400円/月）

【牧島ハウス】

・単身室（寄宿料：11,000円/月）

○宿舎設備・備品：ミニキッチン、ユニットバス、トイレ、机、イス、ベッド、冷蔵庫、本棚、スタンド、エアコン等

○共用設備：洗濯機、乾燥機（各1回100円）

○宿舎は自分の居室を含め全館禁煙

宿舎周辺の生活情報・通学時間

留学生会館からキャンパスまで徒歩7分。牧島ハウスはキャンパス内にある。最寄りの電車駅までは徒歩3分。周辺にはスーパーマーケットやコンビニ、銀行、郵便局などがある。



■修了生へのフォローアップ

1) キャリア支援

プログラムを修了し、母国にて大学を卒業後に日本企業または日系企業への就職を希望する学生に対し、留学生向け企業説明会やビジネス日本語講座等、様々なイベントを周知している。また、インターンシップを希望する学生には、本学のキャリア支援課を紹介するなど個別に相談に応じている。

2) ネットワーキング

本学では、留学生同窓会をアジアを中心に現在までに17支部を設立し、各国支部と連携している。その活動を推進するために、国際センターネットワーク誌「こころねっと」を発行し、帰国留学生と情報交換を行っている。



ビジネス日本語講座にてお辞儀の練習

■問合せ先

<担当部署>

福井大学学務部国際課

住所：〒910-8507

福井県福井市文京3-9-1

TEL： +81-776-27-8405（直通）

FAX： +81-776-27-9715

Email： gk-iadexchange@m1.u-fukui.ac.jp

<ウェブサイト>

福井大学： <https://www.u-fukui.ac.jp/>

語学センター： <http://www.lc.u-fukui.ac.jp/>



岐阜大学 (岐阜県)

日本語をみがく秋学期、日本文化に親しみ論文に集中する春学期

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

●岐阜大学は、5学部・1学環、8大学院研究科、学内共同教育研究支援施設、全国共同利用施設、図書館、医学部附属病院などからなる総合大学です。本学は「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の採択、「国際教養コース」の開設など、広い分野にわたって質の高い教育・研究が行われています。2020年には名古屋大学とともに東海国立大学機構を設立しました。

●岐阜大学のある岐阜市は、東京から約2時間（新幹線利用）、大阪や京都から約1時間（同）、名古屋から約20分という交通の便に恵まれた地方都市です。キャンパスのある柳戸地区は、岐阜駅からバスで約30分、自然豊かな田園地帯にあります。静かな環境に恵まれ、落ち着いた雰囲気の中で勉学に集中することができます。

●学部及び学生数等（2022年5月現在）

○学部・学環＝教育学部・地域科学部・医学部・工学部・応用生物科学部・社会システム経営学環

○大学院＝教育学研究科・地域科学研究科・医学系研究科・工学研究科・自然科学技術研究科・共同獣医学研究科・連合農学研究科・連合創薬医療情報研究科

○教員 853名

○学生 学部生 5,644名 大学院生 1,597名
研究生・聴講生 163名 合計 7,404名

② 国際交流の実績（2022年10月現在）

●現在、19カ国50大学と大学間学術交流協定、27カ国63大学と部局間学術交流協定を結んでおり、活発な国際交流を行っています。

●留学生在籍数 254名（約8割が大学院生、31カ国から）

●外国人研究者在籍数 6名

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2022年：留学生数254人、日研生5人

2021年：留学生数280人、日研生3人

2020年：留学生数294人、日研生6人

④ 地域の特徴

●岐阜県は、日本のちょうど中央にあります。北部には高い山々が連なり、南部には清らかな川が流れています。日本の美しい自然と古き良き文化が残っており、伝統と現代とが調和した生活が見られる地域です。織田信長が城を構えた地としても有名です。

●岐阜県には、高山・郡上など、全国的に有名な観光地があります。岐阜市でも、中央を流れる長良川では伝統的な鶺鴒が行われ、そのほか多くの文化資源に恵まれています。

●岐阜市は、人口約40万人の中規模都市です。大都市より物価が安く、地域コミュニティ間の交流も活発なので、留学生活を送るのに適した地域です。



■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修
日本事情・日本文化に関する研修を主とし、補助的に日本語能力の向上のための研修を行う約1年間のコースです。

② 研修・コースの特色

●日本語能力のレベルに応じて、日本語クラスを受講することができます。そのため、段階的で効果的な日本語能力の向上が可能となっています。

●多彩な日本文化科目を開設しています。受講生の興味・関心に従ってこれらの科目を受講することになります。

●1年間（秋学期・春学期）で効果的な学習ができるよう、本コース受講生対象のクラスを設けています。

●能・狂言等の鑑賞、地域文化体験、博物館見学などを行い、伝統文化に触れます。

●岐阜県内（岐阜市・郡上市など）および近県へ数回、見学や実習の旅行に行きます。

●岐阜大学留学生対象の旅行やスキー教室にも参加することができます。

●日本人学生と交流するクラスも設置しています。

また、日本人学生および学部留学生用の授業を履修することも可能です。

●日研生をサポートするチューターがいます。

●本コース修了後、日本の大学院に再留学する修了生も少なくありません。

●修了生の感想をぜひご覧ください：

<https://www.glocal.gifu->

u.ac.jp/center/education/jlscourse/message/

③ 受入定員

10名（大使館推薦5名、大学推薦5名）

※大使館推薦の学生を優先的に受け入れます

④ 受講希望者の資格・条件等

- 在籍大学において日本語・日本文化を主専攻とする学部学生（2年生以上）であること。
- 日本語能力試験N2合格以上、あるいはそれに相当する日本語力を有していること。

⑤ 達成目標

- 日本語能力の向上を目指すとともに（日本語能力試験N1合格以上）、実体験を通して日本文化についての広い知識を学びます。
- 修了論文作成を通して、研究および論文執筆・発表の基礎を身につけます。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2023年10月上旬 ～ 2024年8月下旬
（在籍期間：2023年10月1日～2024年9月30日）

⑦ 奨学金支給期間

2023年10月 ～ 2024年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

10月初め：渡日
10月：秋学期ガイダンス・開講式
11月：大学祭、県内見学旅行
12月：伝統衣装着体験
1月：論文テーマ決定
4月：春学期ガイダンス
5月：郡上踊りワークショップ
6～7月：能楽ワークショップ等文化体験
8月：修了論文提出、修了論文発表会、論文審査、成績判定、修了式（2022年は8月24日）
8月末：帰国
（1年を通して随時上記以外の文化体験、地域貢献活動を実施）

⑨ コースの修了要件

- 日本語・日本文化研修コースで規定されている講義科目を受講し、出席率を満たした上で、一定の成績を修めて必要単位を取得すること（秋学期19単位、春学期21単位。次表参照）。
- 修了論文を執筆し口頭発表すること。
- 早期修了は、原則として認めない。
- 成績証明書、修了証書を発行します。
- 単位認定・単位互換は、在籍大学との交渉を通じて可能です。在籍大学に確認してください。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

- 実体験を伴って多彩な日本文化に触れることができます。秋学期には伝統衣装着体験、春学期には、郡上お踊りワークショップ、能楽ワークショップ等が予定されています。
- 修了論文指導が非常に丁寧で充実しています。

【日本語科目】

●「総合日本語」

中上級レベルの文法・語彙・読解・口頭表現・文章表現など、総合的な日本語能力の向上をはかります。

- 「日本語読解演習／文章表現／口頭表現／聴解演習」個別の日本語能力の上達をめざします。

【日本文化科目】

- 「日本文学概論」「地域実見-岐阜を知る-」「日本文化へのいざない」

日本の社会と文化を学び、自国の社会と文化との相違を認識します。これらは本コース受講生のために設定されている科目です。

●「日本事情C I」「言語学入門」

日本人学生とのディスカッションや共同作業を通して、多文化社会についての理解を深めます。

【全学共通教育科目】

- 日本人学生用に開講されている科目です。多様な講師による日本語での講義を受講します。

【論文指導・修了論文】

- 問題意識を高めた上で、論文の作成に進みます。論文完成後、修了論文口頭発表会を開催します。

●2022年度（21期生）岐大日研生の修了論文テーマ

- ・岐阜地域のモーニングに関する一考察
- ・カラオケと人間関係
- ・「口」にまつわることわざ—日タイ比較—



2) 研修・コース開設科目

- 授業は秋学期・春学期原則各15週開講されます。
- 必要単位数は秋・春合計40単位です。
- 授業科目名は変更される場合があります。
- 一週間あたりのコマ数（1コマ＝90分）は下記のとおりです。

I) 必修科目

授業科目	秋学期	春学期	計
総合日本語	5 (5)	—	5 (5)
全学共通教育科目	—	3 (6)	3 (6)
日本語読解演習	1 (2)	1 (2)	2 (4)
日本語文章表現	1 (2)	1 (2)	2 (4)
日本語口頭表現	1 (2)	1 (2)	2 (4)
日本語聴解演習	1 (2)	—	1 (2)
日本事情C I	1 (2)	—	1 (2)
日本文学概論	1 (2)	—	1 (2)
地域実見 岐阜を知る	1 (2)	—	1 (2)
言語学入門	—	1 (2)	1 (2)
日本文化へのいざない	—	1 (2)	1 (2)
論文指導	—	1 (1)	1 (1)
修了論文	—	(4)	(4)
合計	12 (19)	9 (21)	21 (40)

Ⅱ) 選択科目

●より専門的な内容を学びたい場合は、学部開講科目の履修も可能な場合があります。ただし、担当教員の許可が必要です。

3) 見学、地域交流等の参加型科目

●秋学期には、県内見学旅行が予定され、「地域実見」では、岐阜県内施設(岐阜城、寺社、博物館等)を訪問し、地域の歴史や文化について学びます。春学期には郡上踊りのワークショップもあります。
●本学の歴代の日研究生は、地域(主に岐阜県郡上市)の観光振興プロジェクトや人事課研修に貢献しており、今後も継続が予定されています。

4) 日本人学生との共修がある科目

●春学期には、日研究生コースの一部として全学共通科目を選択します。日本人学生とともに学ぶ科目で、グループ活動が重視される授業では、活発な意見交換が求められます。ただし、全学共通科目の履修には、十分な日本語能力と担当教員の許可が必要です。

⑪ 指導体制

【責任教員】

氏名	所属	職名	専攻
土谷桃子	日文センター	教授	日本文学

【協力教員】

上記以外の日文センター教員、地域科学部・教育学部の教員、非常勤講師など



■宿 舎

●岐阜大学には、大学内に外国人留学生・研究者用の宿泊施設である国際交流会館があります。

●日本語・日本文化研修コース受講生は、この宿舎が優先的に提供されます。過去の本コース受講生は、全員本宿舎に入居しています。

【国際交流会館】

鉄筋コンクリート4階建(A棟)・5階建(B棟)
部屋数 単身室69室・夫婦室14室・家族室7室
(単身室A棟5,900円/月・B棟4,700円/月)

※今後、家賃は変更する可能性があります。



■修了生へのフォローアップ

●岐阜大学の日研究生コース修了者の特色は、再来日し日本の大学院に入る学生が多いことです。日本への再留学を希望する学生には、随時進路相談に乗っています。

●過去には、岐阜大学をはじめ、全国各地の国立大学の大学院に進学しています。研究者として本学に戻ってきた修了者もいます。

●大学院修了後、日本で就職した学生、帰国して日系企業に就職した学生がいます。

●本コース修了生がたびたび岐阜大学を訪問してくれることを、とても嬉しく思っています。

Facebookでも継続的に交流しています。



■問合せ先

<担当部署>

岐阜大学学務部国際事業課留学支援室

住所: 〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸1-1

TEL: +81-58-293-2142 (直通)

FAX: +81-58-293-2143

Email: inbound@gifu-u.ac.jp

<ウェブサイト>

岐阜大学ウェブサイト

<http://www.gifu-u.ac.jp/>

岐阜大学日本語・日本文化教育センターサイト

<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/center/>

(Facebookもご覧ください)

日研究生コースページ

<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/center/education/jlcourse/>



静岡大学 (静岡県)

日本語教育、日本文化一般、自由研究、見学実習の総合プログラム

■大学紹介

① 大学の特徴及び概要

(1) 静岡大学の歴史

静岡大学は、1949年5月31日に旧制の静岡高等学校、静岡第一師範学校、静岡第二師範学校、静岡青年師範学校、浜松工業専門学校の5校を包括して、新制度の静岡大学として発足しました。その後、県立静岡農科大学の移管、キャンパスの統合、学部の改組・拡充を行い、2022年10月現在6つの学部から構成されています。また、2023年4月のグローバル共創科学部の開設に向けて、準備を進めているところです。

静岡キャンパス：人文社会科学部、教育学部、理学部、農学部

浜松キャンパス：情報学部、工学部

(2) 学生数等（2022年5月1日現在）

教員数：794名 職員数：325名

学生数：学部生 8,473名

大学院生 1,576名

② 国際交流の実績

(1) 大学間交流協定数 64

(2) 部局間交流協定数 55

(2022年5月1日現在)

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2022年：留学生数382人、日研生7人

2021年：留学生数387人、日研生3人

2020年：留学生数463人、日研生0人

大学公式キャラクター「しずっぴー」



④ 地域の特徴

静岡県は本州の中央部で東京と大阪のほぼ中央に位置し、交通がとて便利。南側には海、北側は富士山など高い山があり、自然に恵まれた住みやすいところです。観光地も多く、温泉などいろいろなところへ旅行に行ったり、名産品を楽しんだりできます。

気候はあたたかく、みかんやメロン、お茶など農業が盛んです。また、静岡県は楽器や輸送機器、薬品や健康産業など幅広い産業も発展しています。



茶畑と富士山



浜名湖の夕日

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

b) 主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特徴

日本語授業を中心に、留学生の専門分野に関連した日本文化を学び、将来、日本と留学生の母国との架け橋になるような人材を育成します。

留学期間を10月～3月と4月～8月に分け、10月～3月は語学教育（日本語教育）中心の授業を組み、様々な日本人との交流活動にも参加します。4月～8月は留学生の専門分野を中心に、修了レポート作成、自由研究、見学実習などのプログラムを設定します。

③ 受入定員

9名（大使館推薦6名、大学推薦3名）

日本語能力、専門分野等により、静岡・浜松のどちらのキャンパスで受け入れるかを決定します。

④ 受講希望者の資格、条件等

(1) 外国の大学学部在学中、日本語・日本文化に関する分野を専攻する者

(2) 一定の日本語能力を有する者

（日本語能力試験N2以上）

(3) 2023年9月下旬の指定する日に渡日できる者

⑤ 達成目標

(1) 日本語

留学生のレベルに合わせて、中級から上級までのクラスを受講できます。最終目標は上級レベル（日本語5）であり、上級のレベルに達した学生は、全学教育科目の授業を中心に、さらに高度な日本語力を身につけます。

(2) 日本文化

伝統文化や歴史、文学、法学、現代社会などに関する様々な講義が用意されています。学生は、自らの関心に応じて関連する講義を受講し、専門分野に関する基礎的な知識を身につけます。また、フィールドワークや各種イベントへの参加を通じて、日本文化への理解を深めます。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2023年9月下旬～2024年8月下旬

（在籍期間：2023年10月1日～2024年8月31日）

（帰国は8月下旬の予定）

⑦ 奨学金支給期間

2023年10月～2024年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月末	・ 渡日 ・ プレイメントテスト オリエンテーション
10月	・ 授業開始
11月	静大祭（大学祭） 
12月末～ 1月初め	<冬休み>
2月初め	試験期間
2月中旬	授業終了
2月中旬 ～3月末	<春休み>
4月初め	・ プレイメントテスト オリエンテーション ・ 授業開始
5月	春のビッグフェスティバル(静岡)
8月初め	試験期間、授業終了
8月下旬	修了式、帰国

留学生と日本人の交流イベント 随時

⑨ コースの修了要件

必修科目を含む各学期7科目以上の授業（年間で14科目以上）を履修、単位を修得し、レポートにより専門の研究を修了したと認められる者に、修了証を授与します。なお、修得した単位については、10月以降に成績証明書を発行します。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

全てのレベルの日本語授業を開講するとともに、地域との交流活動を中心とする日本研修・交流プログラムや、留学生の専門にあった様々な文化科目が開講されています。



2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目

留学生の日本語レベルによって必須科目が異なります。

- ・ 日本語レベル3の学生：日本語3 (JLPT N3レベル)
- ・ 日本語レベル4の学生：日本語4 (JLPT N2レベル)
- ・ 日本語レベル5の学生：日本語5 (JLPT N1レベル)

日本語以外の必修科目については、指導教員との相談の上、研修希望分野を学ぶために必要な基礎科目を履修します。

◆日本語科目（日本語・日本文化研修科目）

日本語・日本文化 研修科目		時間数		
		後期 10～3月	前期 4～8月	計
日本語3	読解・文法	30	30	60
	聴解・語彙	30	30	60
	作文・話し方	30	30	60
日本語4	読解・文法	30	30	60
	聴解・語彙	30	30	60
	作文・話し方	30	30	60
日本語5	日本語総合A	30	30	60
	日本語総合B	30	30	60
日本語 3～5	日本文化研修	46		46
	日本語と文化	30	30	60

*ただし、浜松キャンパスでは日本語5は開講されません。

II) 選択科目

レベル5以上の日本語学習を希望する場合は、学部留学生が受講する日本語科目を受講することができます。「日本語Ⅰ～Ⅵ」は、大学における学習・研究や日常生活に役立つ総合的な日本語能力を身に付けます。「日本事情」は、日本文化や異文化理解についての基礎的な知識を養います。

◆日本語科目（留学生科目）

全学教育科目		時間数		
		後期 10～3月	前期 4～8月	計
日本語Ⅰ	聞く・書く		30	30
日本語Ⅱ	読む・話す		30	30
日本語Ⅲ	発表	30		30
日本語Ⅳ	聞く・書く	30		30
日本語Ⅴ	読む・話す		30	30
日本語Ⅵ	実用日本語	30		30
日本事情	異文化理解	30		30

また、様々な文化科目も選択することができます。それぞれの科目の時間数は30時間です。これら以外にも多くの科目が開講されています。なお、これらの科目を受講する日本語レベルは上級が望ましいです。

◆文化科目

*年度により開講しないことがあります。

日本文化の科目（例）
人間学概論、社会学概論、心理学概論 文化人類学概論、歴史学概論、日本史概説 日本・アジア言語文化基礎論、日本文学概論 日本語学概論、書道、専門日本語基礎 憲法総論・統治機構、法学入門、日本経済史 国際社会と日本、国際日本学基礎 その他、日本文化に関連する科目 （全学教育科目・学部開講専門科目の一部）

3) 見学、地域交流等の参加型科目

「日本語・日本文化研修科目」では、地域や日本人学生との交流を行っています。また、「日本の文化」という授業では、静岡市内各所を訪問します。さらに、各学部においては、それぞれの分野に関係する実習科目を開講しています。

4) 日本人学生との共修等の機会

「日本事情」では日本人と留学生混合で、異文化理解について学習します。



⑪ 指導体制

(1) 指導教員：

留学生1人に対し、国際連携推進機構教員1人が、学習・生活面の指導を行います。

2023年指導教員：熊井、案野、袴田、佐川

(2) チューター：

留学生1人に対して1人の静岡大学学生チューターが付き、特に静岡・浜松に来たときの出迎えや、各行政手続きなどを手伝います。

(3) 協力教職員：

指導教員とは別に、留学生の日本での学習・生活・健康面について、様々な協力体制が整っています。

- ・ 静岡大学国際連携推進機構教員
- ・ 留学生カウンセラー
- ・ 留学生専門教育教員
(人文社会科学部、教育学部)
- ・ 人文社会科学部国際連携推進委員会
- ・ 教育学部国際交流委員会
- ・ 情報学部国際交流委員会
- ・ 静岡大学国際課
- ・ 国際交流ラウンジ

■ 宿 舎

留学生に宿舎を提供するとともに、様々な国籍の学生が集まる国際交流の場を提供することを目的として、留学生宿舎を用意しています。入居の許可期間は原則として1年間です。なお、室数が限られているので、希望しても必ずしも入居できるとは限りません。

① 静岡国際交流会館

室数：95室

面積(㎡)：居室7 ㎡、共有43 ㎡

入居にかかる費用：約13,200円～18,000円

宿舎料等(月額)：約25,400円～29,400円



② 浜松国際交流会館1号館

室数：35室

面積(㎡)：12.42㎡

入居にかかる費用：約27,000円

宿舎料等(月額)：約13,000円

③ 浜松国際交流会館2号館

室数：95室

面積(㎡)：居室7 ㎡、共有43 ㎡

入居にかかる費用：約5,400円

宿舎料等(月額)：約24,700円



④ あけぼの寮

室数：45室

面積(㎡)：15㎡

入居にかかる費用：約20,000円

宿舎料等(月額)：約15,000円

■ 修了生へのフォローアップ

(1) 海外同窓会

インドネシア、タイ、ベトナム、マレーシアで同窓会活動を行っています。

(2) 修了生の声

帰国後、大学に戻り、学位を取得。その後、再渡日。日本人女性と結婚し、現在は通訳・翻訳・英語教育などの仕事をしている。留学中は、たくさんの日本人の友人ができ、日本語能力が向上し、日本人との国際交流を楽しめました。日研究生として採用された恩返しをしたいと思っています。現在ALTとして静岡市内の学校で英語を教えています



■ 問合せ先

<担当部署>

静岡大学学務部国際課国際学生交流係

住所：〒422-8529

静岡県静岡市駿河区大谷836

TEL：+81-54-238-4260 (直通)

FAX：+81-54-238-5041

Email：inbound@adb.shizuoka.ac.jp

<ウェブサイト>

静岡大学国際連携推進機構：

<https://www.suoic.shizuoka.ac.jp/>

静岡大学：

<https://www.shizuoka.ac.jp/>



名古屋大学 (愛知県)

実践的な日本語力の向上、日本社会・日本文化の更なる理解をめざす

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1) 特色と歴史

名古屋大学は日本の高等教育研究機関として、主要な国立大学の一つです。本学は、中部地方の政治・産業・文化の中心である名古屋市にあります。本学の歴史は医学部と病院が発足した1871年にさかのぼります。長年の変遷を経て、1949年には新制大学になり、現在9学部・13大学院研究科・3附置研究所・図書館・19共同教育研究施設等が設置されています。また、外国人留学生の宿舎としてインターナショナルレジデンス大幸、インターナショナルレジデンス東山を含め合計6カ所が設置されています。

2) 教員・学生数等 (2022年5月1日現在)

学部：文学部、教育学部、法学部、経済学部、情報学部、理学部、医学部、工学部、農学部

大学院：人文学研究科、教育発達科学研究科、法学研究科、経済学研究科、情報学研究科、理学研究科、医学系研究科、工学研究科、生命農学研究科、国際開発研究科、多元数理科学研究科、環境学研究科、創薬科学研究科

教職員数：3,198名

学生数：学部等 9,525名 大学院 6,309名
計 15,834名

② 国際交流の実績

- 1) 留学生在籍数：2,386名 (104カ国・地域) (2021年度)
- 2) 研究者等受入数：68名 (26カ国・地域) (2021年度)
- 3) 学術交流協定数：474 (2022年5月1日現在)

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生 (日研生) の受入れ実績 (各年5月1日現在)

2022年：留学生数 2,040人、
日本語・日本文化研修留学生 6人
2021年：留学生数 1,937人、
日本語・日本文化研修留学生 8人
2020年：留学生数 1,871人、
日本語・日本文化研修留学生 14人

④ 地域の特徴

名古屋市は、日本三大都市圏の一つを形成する人口230万人の都市です。日本の中心にあり、国外や日本各地への交通の便に恵まれています。市の中心部から大学キャンパスまで地下鉄で約15分、東京までは新幹線で1時間半、京都まで40分で行くことができます。

また、豊かな自然環境のなかに、活気ある都会の姿と伝統的な文化遺産が共存する都市でもあります。周囲を山や海に囲まれ、年間を通して様々なアウトドアスポーツや文化イベントを楽しむことができます。近年、名古屋市はJポップカルチャーの中心地としても注目を集めています。

大都市でありながら、物価は比較的安く静かな街並みで、留学生活を送るのに暮らしやすい地域です。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

- a) 主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

日本語・日本文化研修留学生のためにデザインされた研修プログラムを提供する。専門的な知識および体系的な言語学習を盛り込んだプログラムを提供する。

1. 日本語の学習

・日研生対象の専門授業および言語教育センターで開講している日本語クラスを受講することによって、日本語の技能別能力の向上を図るとともに専門知識を学ぶ。

・教室内外での学習を通して、実践的な日本語力を身に付けることができる。

2. 研究者志向の留学生への対応

・レポート作成法、入門講義 (「社会とことば」「日本語コミュニケーション論」「日本文学」など) 等の授業を通して、各分野の基礎知識・研究方法が学べる。

③ 受入定員

20名 (大使館推薦17名、大学推薦3名)



④ 受講希望者の資格、条件等

1. 中級レベル以上の日本語力を有すること（「日本語能力試験」N2相当以上）。
2. 日本語・日本語学・日本語教育学・日本文学・日本学（日本研究）を主専攻とすること、またはそれらの分野に強い関心をもつこと。
3. 勤勉で学習熱心な人物。文化の架け橋となることへの意欲を有する人物。

⑤ 達成目標

1. 上級レベルの日本語力の習得（話す、聞く、読む、書く、のすべてにわたる）。
2. 日本、日本文化に対する的確な理解。
3. 各自の専門分野に通じる基礎的な知識と研究方法の習得。

⑥ 研修期間（在籍期間）

2023年10月1日 ～ 2024年9月30日
（原則、2023年10月1日～2024年9月30日）
修了式は9月上旬～中旬を予定

⑦ 奨学金支給期間

2023年10月 ～ 2024年9月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬：渡日、開講式、オリエンテーション

10月～翌年2月初旬：秋学期の授業（日本語、日本事情、日本文化の関連科目）

12月下旬～1月上旬：冬季休業

2月～3月：春季休業

3月上旬：研究計画発表会

4月～8月上旬：春学期の授業（日本語、日本事情、日本文化の関連科目）

8月中旬～9月：夏季休業、研修成果レポート執筆

9月上旬：研究成果発表会（2022年度は9月2日）・修了レポート提出

9月上旬～中旬：修了式（2022年度は9月6日）

9月中旬：帰国



⑨ コースの修了要件

プログラムの必須科目44単位をすべて取得し、選択科目を4単位以上取得する。コース修了者には修了証書が与えられる。成績証明書が発行可（単位互換は学生の本国の在籍大学の判断による）。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

日本語日本文化研修留学生のための体系的なプログラムにより、上級レベルの日本語力を身につけ、日本語・日本文化に対する理解を深める。全ての科目を通して学問探求の基礎力を養う。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目・内容

A. 日本語・日本文化特別プログラム（科目名は年により変更の場合がある）

（年間225時間、150コマ、20単位）

1. 「日本語総合演習Ⅰ」（前期15コマ、2単位）
「日本語総合演習Ⅱ」（後期15コマ、2単位）
2. 「レポート作成法Ⅰ」（前期15コマ、2単位）
「レポート作成法Ⅱ」（後期15コマ、2単位）
3. 「現代社会論」（前期15コマ、2単位）
「近現代社会論」（後期15コマ、2単位）
4. 「日本論入門」（前期15コマ、2単位）
「日本近現代文学入門」（後期15コマ、2単位）
5. 「言語文化の多様性入門」（前期15コマ、2単位）
「言語文化の多様性概論」（後期15コマ、2単位）

B. 研究修了レポート（4単位）

C. 日本語技能別クラス（上級レベル）

（年間225時間、150コマ、20単位）

「文法Ⅰ、Ⅱ」「会話Ⅰ、Ⅱ」「聴解Ⅰ、Ⅱ」
「読解Ⅰ、Ⅱ」「作文Ⅰ、Ⅱ」

D. 教養科目

「留学生と日本～異文化を通しての日本理解」
（前期22.5時間、15コマ、2単位）



II) 選択科目・内容

入門講義（以下は2021年度の科目例。年により変更の場合がある。）

1. 「日本語コミュニケーション論Ⅰ」（前期15コマ、2単位）
「日本語コミュニケーション論Ⅱ」（後期15コマ、2単位）
2. 「東アジア近現代史Ⅰ」（前期15コマ、2単位）
「東アジア近現代史Ⅱ」（後期15コマ、2単位）
3. 「日本文学Ⅰ」（前期15コマ、2単位）
「日本文学Ⅱ」（後期15コマ、2単位）

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

愛知県や東海地方の産業や伝統文化の理解を深めるために地域の見学を実施する。トヨタ博物館の見学、有松絞商工協同組合の協力を得て体験見学等を実施する。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

全学共通科目「留学生と日本～異文化を通しての日本理解」「多文化コミュニケーション論」「レポート・論文作成法」等の授業を聴講することができる。これらの授業において日本人学生と討論や協働作業を行うことによって日本社会や日本文化に対する相互理解を深める。

⑪ 指導体制

専任教員が学業の指導教員として、日本語の学習支援及び研究活動のためのきめ細かな指導・助言を行っている。

留学生のためのアドバイジング専門の教員が、生活面のきめ細かな指導・助言を行っている。



■宿 舎

1. インターナショナルレジデンス大幸 (地下鉄で30分)

所在地：名古屋市東区大幸南1丁目1番18

施 設：鉄筋コンクリート8階建、

単身室(13㎡)224室、夫婦室(31㎡)4室、
多目的室、交流スペース(兼ダイニングキッチン)、洗濯室、ピザ店、事務室等があり、
各室にはバス、トイレ、デスク、チェア、電気スタン
ド、マットレス、ベッド本体(収納付き)、
洋服棚、冷蔵庫、エアコン等が備え付けられてい
ます。

2. インターナショナルレジデンス東山(大学構内)

所在地：名古屋市千種区不老町1番地

施 設：鉄筋コンクリート居住棟6・7・8階建、
管理棟2階建

留学生用…単身室(16㎡)95室、夫婦室(34㎡)25室
研究者用…夫婦室(34㎡)15室、家族室(51㎡)2室
談話室、図書室、会議室、和室、洗濯室、多目的
室、事務室等があり、各室には、台所、バス、
トイレ、ベッド、洋服ダンス、収納庫、机、椅子、
エアコン、冷蔵庫、靴箱等が備え付けられていま
す。



3. インターナショナルレジデンス山手ノース

(徒歩10分)

所在地：名古屋市昭和区高峯町165

施 設：鉄筋コンクリート3階建

留学生用…単身室(15㎡)104室
多目的ルーム、コインランドリー等があり、
各室には台所、バス、トイレ、ベッド、カーテ
ン、オープン、クローゼット、収納棚、机、椅子、
卓上電気スタンド、エアコン、冷蔵庫、網戸、
電子レンジ等が備え付けられています。

4. インターナショナルレジデンス山手サウス

(徒歩10分)

所在地：名古屋市昭和区高峯町165

施 設：鉄筋コンクリート7階建

留学生用…単身室(7㎡)112室
台所(オープンリビング)、冷蔵庫、電子レンジ、
バス、トイレ、コインランドリー等があり、
各室には、ベッド、オープンクローゼット、
収納棚、机、椅子、卓上電気スタンド、網戸、
エアコン、カーテン等が備え付けられています。

5. 石田記念インターナショナルレジデンス妙見

(徒歩10分)

所在地：名古屋市昭和区妙見町40

施 設：鉄筋コンクリート5階建

留学生用…単身室(15㎡)93室
台所、バス、トイレ、ベッド、
カーテン、机、椅子、エアコン、
卓上電気スタンド、電子レンジ、
冷蔵庫、収納庫、コインランドリー
等が備え付けられています。



■修了生へのフォローアップ

在学中より進路相談を行っている。修了生は本プログラムの経験をいかして様々な方面で活躍している。本学大学院(人文、法、経済等)をはじめ各国大学院への進学、日系企業への就職、通訳・翻訳者等。帰国後は本学の同窓会への参加、本学の留学生との交流およびネットワーク構築に貢献すること。

■問合せ先

<担当部署>

名古屋大学教育推進部学生交流課

住所 〒464-8601

愛知県名古屋市千種区不老町

TEL +81-(0)52-789-2198 (直通)

FAX +81-(0)52-789-5100

E-mail iess@adm.nagoya-u.ac.jp

<ウェブサイト>

名古屋大学

<http://www.nagoya-u.ac.jp/>

言語教育センター

<http://jp.ilc.iee.nagoya-u.ac.jp/ja/>

コース概要

<http://jp.ilc.iee.nagoya-u.ac.jp/ja/japanese/ipaj.html>



三重大学 (三重県)

将来、日本や日本語に関係する研究や仕事を目指し、
国際的に活躍する人を育てるためのコースです。

■大学紹介

①大学の特色及び概要

◆三重大学は総合大学で、人文学部、教育学部、医学部、工学部、生物資源学部の5学部があります。また、大学院は地域イノベーション学研究科を加えた6研究科があり、キャンパスは津市にあります。自然環境に恵まれ、キャンパスのすぐ東側では海岸に波が打ち寄せ、北西には鈴鹿の山が連なります。

◆学生数・教員数

学部学生数：5,907名

大学院生数：1,189名

教員数：751名

外国人留学生数：203名（34カ国）

〈2022年5月1日現在〉

◆環境先進大学

本学は国際規格である ISO 14001 の認証を受けて様々な環境マネジメントシステムを構築しています。

②国際交流の実績

◆三重大学は、外国の113大学・機関と、大学間または学部間の学術交流協定を結んでいます。これらの大学とは、教員・学生の交流、学術情報交換などを行っています。

〈2022年4月1日現在〉

③過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

	留学生	日研生
2022年度	203名	4名
2021年度	174名	5名
2020年度	204名	4名



三重大学上浜キャンパス



伊賀上野城



三重大学国際交流センター



伊勢神宮 内宮
鈴鹿サーキット

④地域の特徴

◆津市は、三重県の県庁所在地です。人口は約27万人、温暖な気候で暮らしやすいところです。交通も便利で、大阪へのアクセスは約1時間半、京都へは約2時間、東京へも約3時間です。

◆三重県は、歴史や文学・国学の豊かなところです。すでに8世紀には『万葉集』の詩歌にうたわれ、多くの小説の舞台となりました。俳句を詠んだ松尾芭蕉は現在の三重県の地に生まれ、三島由紀夫が小説『潮騒』に描いた神島も三重県にあります。

◆県内には多くの史跡や名勝があり、観光客もたくさん訪れます。伊勢神宮を中心とした歴史的建造物、古い宿場町や歴史街道も残っています。また、伊賀は忍者の里として有名で、熊野古道は2004年7月に世界遺産に登録されました。

◆県内にある鈴鹿サーキットは、「日本のモータースポーツの聖地」と言われてきました。F1日本グランプリが開かれることにより、世界各国から多くのファンが集まります。

◆三重大学国際交流センターは、三重大学における国際交流の要として、本学の国際的な教育研究の充実、及び地域の国際化に寄与することを目的とし、様々な国際的な活動の企画・推進を行っています。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

◆将来、日本や日本語に関係する研究や仕事を目指している人のためのコースです。

◆地域住民及び三重大学生、在日外国人や留学生との相互交流を通して、日本文化や異文化への理解を深めることができます。

◆それぞれの指導教員の下、各自が設定したテーマや、基礎的な研究方法やレポートの書き方について学ぶことができます。

③ 受入定員

5名（大使館推薦1名、大学推薦4名）

④ 受講希望者の資格、条件等

次の(1)と(2)の両方の条件を満たすこと。

(1) 本国の4年制大学において、日本語・日本語教育・日本文化関係を専攻している人（2年生以上）。

(2) 日本語能力試験N2以上か、それに相当する日本語力がある人（語彙を約4,000～6,000語、漢字を約600～800字以上、既に習得している人）。

⑤ 達成目標

日本語・日本文化研究を通して、母国と日本のかけはしとなれる学生の育成。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2023年9月下旬～2024年8月下旬
（在籍期間：2023年10月1日～2024年8月31日）

⑦ 奨学金支給期間

2023年10月～2024年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

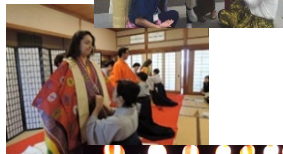
◆秋学期（後期）

9月下旬 渡日／オリエンテーション
日本語レベル判定試験
10月 授業開始
11月 大学祭
12月 国際交流デイズ
2月 期末テスト
中間発表会



◆春学期（前期）

4月 授業開始
7月 最終発表会
8月 盆踊り大会
研修レポート提出
修了式／帰国



⑨ コースの修了要件

日本語日本文化演習AB及び各レベルの必修科目及び選択科目から、各学期合計7科目以上受講し、また日本語による研修レポートの執筆と研修発表（中間発表会・最終発表会）をします。成績判定は、教員による成績会議で総合的に判断されます。コース修了が認められた学生には、成績証明書および修了証書を発行します。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

◆日本語や日本文化、または三重県に関するテーマを決めて、担当教員の指導のもと研究または実践活動を進めます。



2月中旬：中間発表会
7月中旬：最終発表会
8月下旬：研修レポート提出



◆研修が始まる前に、日本語レベル判定試験を受けます。その結果により中級Ⅱレベルと上級レベルに分かれます。自分のレベルに合わせて、中級Ⅱから上級レベルの日本語科目を受講して学習します。

2) 研修・コース開設科目（全て90分×16回／学期）

I) 必修科目

◆中級Ⅱレベル

授業名	内容
(1) 文法・読解	日本語の文章(文学、評論、随筆、自然科学)を読むことで、その面白さを味わい理解できるようになる。自分の好きな日本の文学作品等を1つ選び、その本の紹介をする(課題)。
(2) 作文	大学の専門分野の学習への橋渡しとして、高度な文章を総合的に読解できる力をつける。
(3) 聴解・会話	映画・アニメーション・ドラマ等の視聴を通して、生の日本語を聞き取り、意見交換を通して聴解・会話を高める。
(4) 文法	中・上級レベルの文法を理解し、また自身の発話等の中で産出できる実践的な能力を養う。
(5) 読解	読解演習を通し、語彙や文法事項を文章の中で理解し、また文章全体の趣旨を理解する能力を育む。
(6) 会話	データやグラフ等の資料から自分の意見を述べ、ディスカッションや発表する力を涵養する。
(7) 日本事情Ⅰ：三重の社会と文化	日本と三重県の社会文化環境を、学外研修などを通して楽しみながら理解する。

◆上級レベル

授業名	内容
(8) 上級総合日本語Ⅰ	学術的な小論文の書き方の基礎を学ぶ。また、実際に小論文を書く。
(9) 上級総合日本語Ⅲ：留学生と学ぶ日本	三重大学生とのディスカッションを通して、日本社会・文化への理解を深めたり、自分の意見を発表したりする。
(10) 日本語・日本文化演習	自分の専門分野に関する研究を進め、研修レポートを書くための指導を受ける。

◆上級レベルの人は中級Ⅱの授業科目を、中級Ⅱレベルの人は中級Ⅰの授業科目を選択科目として受講することもできます。

Ⅱ) 選択科目 (英語による科目)

授業名	内容
(11) 日本事情Ⅱ : 英語で学ぶ文化	様々な文化的事象をディスカッションを通して学ぶ。
(12) 世界遺産と私たち	ユネスコ世界遺産とその価値について学ぶ。
(13) 環境問題と地球	世界の環境問題と、社会持続性について学ぶ。
(14) 英語でエッセイ	事例やデータに基づいた説得力のあるエッセイの書き方を学ぶ。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目

以下の科目では、三重県の様々な場所を訪問して地域の文化について学びます。

◆日本語による科目

日本事情Ⅰ：三重の社会と文化 (=表Ⅰ(7))

4) 日本人学生との共修がある科目

以下の科目では日本人学生と共に学ぶことができます。

◆日本語による科目

上級総合日本語Ⅲ：留学生と学ぶ日本 (=表Ⅰ(9))

◆英語による科目

日本事情Ⅱ：英語で学ぶ文化 (=表Ⅱ(11))

世界遺産と私たち (=表Ⅱ(12))

環境問題と地球 (=表Ⅱ(13))

英語でエッセイ (=表Ⅱ(14))

⑪ 指導体制

◆福岡昌子教授 (専門：音声・第二言語習得)

◆松岡知津子准教授 (専門：文法)

◆正路真一助教 (専門：心理言語学・第二言語習得)

■宿 舎

三重大学には現在留学生用の宿舎が三つあります。「外国人留学生寄宿舍」は、留学生と日本人学生が部屋をシェアして共同生活し、異文化交流を通してグローバルな視点を持てる場となっています。

①外国人留学生会館 (1988年建設)

月額 6,900円～14,000円

②外国人留学生寄宿舍 (2009/15年建設)

月額 7,500円～30,000円

③国際女子学生寄宿舍 (1973年建設) 月額 5,900円



(上-左) 外国人留学生寄宿舍 外観
(上-右) 外国人留学生寄宿舍 共用キッチン
(下-左) 外国人留学生寄宿舍 居室の共用ダイニング
(下-右) 国際女子学生寄宿舍 居室

■修了生へのフォローアップ

修了生と在校生の交流を目的に、12月の国際交流デイズでイベントを開く予定です。

■その他の学習支援体制

◆日本語チューター

三重大学生が留学生の日本語の向上や日本文化への理解を深める機会を与えます。日常生活のサポートもします。

◆てらこやサークル

三重大学生による日本語学習のボランティアサークルです。一緒に会話の練習をしたり、日本語の宿題をみてもらうことができます。

■ホストファミリー・プログラム

希望する留学生は「セカンド・ホーム」というプログラムに登録し、週末や休日と一緒に楽しく過ごすためのホスト・ファミリーを持てる可能性があります。約30年の歴史を持つ市民交流プログラムです。



■問合せ先

<担当部署>

三重大学国際・情報部国際交流チーム

住所： 〒514-8507
三重県津市栗真町屋町1577

TEL： +81-59-231-9688 (直通)

FAX： +81-59-231-5692

Email： ryugaku@ab.mie-u.ac.jp

<ウェブサイト>

三重大学国際交流センター：

<http://www.mie-u.ac.jp/international/index.html>

三重大学：

<http://www.mie-u.ac.jp/>



シロモチくん
(津市PR
キャラクター)





京都大学 (京都府)

学問・文化に全身全霊を注ぐ実り多き1年を

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1) 京都大学は1897年の開学以来個性的でアカデミックな学風を打ちたて、現在もその精神は健在である。今日では、10学部、18大学院研究科、30を超える研究所やセンターおよび図書館、病院等を有する日本有数の総合大学として、学術・文化の発展に貢献している。

2) 京都大学の教員数は、2022年5月1日現在3,475名であり、12,889名の学部学生、9,566名の大学院生が、吉田、宇治、桂の3キャンパスに分かれて勉学、研究に励んでいる。

教授	准教授	講師	助教	助手
1043	922	279	1230	1

(2022年5月1日現在)

② 国際交流の実績

京都大学では2022年5月1日現在、109ヶ国・地域からの、2,766名の留学生が学んでいる。国際高等教育院附属日本語・日本文化教育センターはこれらの学生の勉学・研究を、教育・生活の面から支援している。

京都大学は、国際交流の拠点大学として55ヶ国・地域・機関の182大学3大学群16機関と大学間協定を提携しながら、学術国際交流を推進している(2022年4月1日現在)。部局間学術交流協定を締結している機関数も749に上り、日常的に学術国際交流が可能な環境が整備されている。これらの機関からの交換留学生の受入れや日本人学生の海外留学を推進しつつ、世界的な視野で考え、行動できる学生の養成に大学全体として力を入れている。

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生(日研生)の受入れ実績

2022年: 留学生数 2,766人、日研生 22人
2021年: 留学生数 2,667人、日研生 21人
2020年: 留学生数 2,715人、日研生 11人

④ 地域の特徴

京都は美しい自然に恵まれ、千年有余の歴史と豊かな伝統を誇る古都として世界的に有名であるが自由闊達な精神を育んできた学術の街としても知られる。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

本プログラムは、将来日本をフィールドにしながら、教育・研究分野、外交分野、国際機関、多国籍企業等での人的交流のかなめとなる役割を担うことが期待される人材を養成する京都大学のプログラムである。



↑ 百周年記念時計台 (吉田キャンパス本部構内)

自国で日本語や日本文化を学んでいる学生が、1年間京都大学に留学することによって、日本語だけでなく、多様な日本の文化や現代社会に接し、理解を深めるプログラムを提供する。

更に、世界各国からの学友との共学や、課題研究への取り組みを通して、世界を視野に入れた幅広い思考力と実践力を育成する。

③ 受入定員

15名 (大使館推薦11名、大学推薦4名)

④ 受講希望者の資格、条件等

1) 資格

日本語能力試験 (JLPT) N2以上を保持し、在籍大学で日本語・日本文化を専攻している学生であること。

2) 条件

京都大学の研修プログラムでは日本人学生とほぼ同等の内容の講義が、ナチュラルスピードの日本語で行われる。また修了論文作成の一環として文献を読み、研究・調査を行ない、発表することになっており、最終的に論文を執筆する。プログラム参加者にはこれらを受講し、修了研究論文作成を行うことのできる日本語運用能力が求められる。更に、研修プログラムを受講するための基礎的知識・学力を備えていることが望ましい。

⑤ 達成目標

このプログラムでは、日本社会・文化に対する知見を深め、同時に学術レベルの高度な日本語力の修得を到達目標とする。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2023年9月下旬～2024年9月下旬
（在籍期間：2023年10月1日～2024年9月30日）

⑦ 奨学金支給期間

2023年10月 ～ 2024年9月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬：渡日（2023年は9月26日）
9月28日 履修ガイダンス（予定）
9月29日 開講式（予定）
10月上旬 図書館利用ガイダンス
10月下旬 奈良東大寺見学
11月上旬 和菓子作り体験
11月下旬 街並み散策・町家見学
12月上旬 産経新聞大阪本社訪問
12月上旬 歌舞伎鑑賞会
12月中旬 能楽鑑賞会
12月中旬 裁判所見学・裁判傍聴
1月上旬 京都国立博物館見学
2月中旬 実地見学旅行（1泊2日）
4月中旬 茶道体験
4月下旬 俳句作り・句会
5月上旬 通訳教室
5月下旬 庭園見学
6月上旬 高校訪問
6月中旬 文楽鑑賞教室
6月下旬 書道教室
7月上旬 企業見学
7月中旬 祇園祭見学
7月下旬 座禅体験
7月下旬 修了研究発表会
9月13日 修了式（予定）
9月下旬 帰国（2024年は9月30日）

⑨ コースの修了要件

本プログラムに1年間在籍し、次のa)、b)、及びc)を満たした学生に対し、本プログラムの修了を認定し、修了証書を授与する。

a) 次の各分野の必修、選択必修科目から計32単位以上を修得すること。日本文化科目：選択必修12単位、日本語科目：必修16単位、日本語・日本文化研究論文作成演習：必修4単位

b) 日本語・日本文化研修プログラム修了研究論文を提出し、審査に合格すること。（4単位）

c) 合計90時間の日本文化研修に参加すること。

修了判定は国際高等教育院附属日本語・日本文化教育センター運営委員会にて行う。
上記授業科目の成績を記載した履修証明書を発行すると共に、修了要件を満たした学生には修了証明書を授与する。
母国大学の学期開始のため早期帰国が必要な学生は、帰国前に修了研究論文第1稿を提出し、帰国後に完成稿を提出することを条件に、8月中旬以降の早期帰国が認められる。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

授業科目名		必修・選択	単位数		時間数
			I期	Ⅱ期	
a) 必修・選択科目					
日本文化科目	日本社会論	選択必修	6 (最大取得可能な単位数:10)		30
	現代日本の社会問題				30
	日本の経済				30
	日本の法と政治				30
	日本の歴史と文化				30
	人文・社会科学科目群 推奨科目	選択必修	6 (推奨取得単位数:8)	各30時間	
日本語科目	日本語概論	必修	2		30
	日本語アカデミック・リーディング	必修	2		30
	日本語アカデミック・ライティングⅠ	必修	2		30
	日本語アカデミック・ライティングⅡ	必修		2	30
	日本語アカデミック・プレゼンテーションⅠ	必修	2		30
	日本語アカデミック・プレゼンテーションⅡ	必修		2	30
	日本語の歴史	必修	2		30
	日本語教育演習	必修		2	30
修了研究	論文作成演習Ⅰ	必修	2		30
	論文作成演習Ⅱ	必修		2	30
	b) 修了研究論文	必修		4	
c) 日本文化研修					90

1) 研修・コース科目の特色
本プログラムでは、日本に対する理解を深めることを目的に、日研究生専用の日本文化科目や日本人学生と共に学ぶ人文・社会科学科目群推奨科目を履修する。

また、京都の豊かな伝統と文化を直接体験する日本文化研修を実施している。更に、日本語・日本文化研究論文作成演習やアカデミック・ジャパニーズ科目を通して、調査・研究に必要なアカデミックスキルや高度な日本語力の修得を目指す。また、自らの関心事を切り口に日本を探究する修了研究に励むことにより、学習を通して得られた知見の更なる深化を図る。

2) 研修・コース開設科目

- I) 必修科目（10科目、300時間）
- ・日本語概論
人称表現、授受表現、配慮表現などを考察対象としながら、日本語の特徴について学ぶ。
 - ・日本語アカデミック・リーディング
学術論文や専門書の構造を理解し、必要な情報を素早く、且つ的確に読み取るリーディング・スキルの習得を目指す。
 - ・日本語アカデミック・ライティングⅠ・Ⅱ
実践的練習を行いながら、論文・学術レポートを日本語で書く上で必要な知識・技能を習得する。
 - ・日本語アカデミック・プレゼンテーションⅠ・Ⅱ
日本語でのアカデミック・プレゼンテーションのための日本語技能を高め、構成力、表現力等を習得する。
 - ・日本語の歴史
日本語がどのように生まれ変化してきたのか、どのような表記を用いていたのか、どのような発音であったのかなど、日本語の歴史について学ぶ。

・日本語教育演習
文学部・文学研究科の学生と共に「魅力的な日本語」及び習得が困難な日本語の学習項目を選定し、それらを多角的に分析しながら、興味を喚起する指導法や正確な習得を促進する指導法を探る。

・日本語・日本文化研究論文作成演習Ⅰ・Ⅱ
各学期 4クラスずつ開講。日本をテーマにした論文を作成するために必要な資料の収集方法や扱い方、論文作成の方法を個別に指導する。本科目の一環として論文構想発表会、中間発表会、修了発表会を実施し、研究の中間・成果報告を行う。

・日本語・日本文化研修プログラム修了研究論文
日本に関わるテーマについてオリジナリティのある論文を執筆する。執筆した論文を「日本語日本文化研修留学生報告書」として発行している。

Ⅱ) 選択必修科目 (5科目中3科目を履修、90時間)

・日本社会論

日本の伝統社会が各時代を通じて、どのように変化してきたのか、その過程において“近代化”が果たした役割とは何かについて理解する。

・現代日本の社会問題

人口構造・ジェンダー・雇用・不平等に焦点を当てつつ、現代社会問題の歴史的変遷と現状を把握する。

・日本の経済

標準的なマクロ経済学の概念および手法を身に付け、それに基づいて日本経済で過去起きたこと、現在起きていることを理解する。

・日本の法と政治

日本法の歴史を踏まえつつ、日本政治の実際の動きについて知見を深める。

・日本の歴史と文化

古代から現代に至る日本の文化を、文学、歴史、哲学、美術等の多方面から考察する。長い歴史を経て、日本のさまざまな文化的所産がいかに形成され、また時代の流れとともにいかに変貌を遂げてきたかを考える。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

日本、とりわけ京都の文化の特質や歴史的変遷を理解することを目的に各学期45時間の日本文化研修を行う。同研修は原則的に事前講義と体験から構成されており、文化の担い手や高校生等との地域交流も含まれる。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

・選択必修科目 (3科目、90時間)

京都大学全学共通科目の中から日本語・日本文化研修留学生用に選定された推奨科目より各学期2～3科目を選択して履修する。日本人学生と共に学ぶこれらの科目は、文学、言語、教育、法・政治、

歴史、社会の諸分野より自らの専攻分野や関心に沿って選択できる。

・大学院生の日本人チューターがグループ活動の形で、日研生の学習や生活のサポートを行う。

⑪ 指導体制

1) 日本語・日本文化研修留学生は京都大学国際高等教育院附属日本語・日本文化教育センターの科目等履修生として在籍し、本学で認定した単位を修得する。

2) 日本語・日本文化研修留学生の指導は日本語・日本文化教育センターの教員を中心に担当する。

プログラム主任教員：

ルチラ パリハワダナ (国際高等教育院附属日本語・日本文化教育センター、教授・専門：日本語学・日本語教育学)

プログラム副主任教員：

湯川 志貴子 (国際高等教育院附属日本語・日本文化教育センター、准教授・専門：日本古典文学)

その他日本語・日本文化教育センター専任教員数名が主として指導にあたる。

■宿 舎

すべての日本語・日本文化研修留学生は、京都大学国際交流会館修学院本館、百万遍国際交流会館 (いずれも京都市左京区) 等の留学生・外国人研究者用の寮に入居することができる。家賃は単身室で月2万円～3万円台で、入居日は9月末の平日、退去日は9月末から一週間前頃となっている。また、民間アパートを希望する学生は、京都市内のアパートを自分で探すこともできる。家賃は月平均4万円程度であるが、入居の際には敷金・礼金を支払う制度があり、家賃1～3カ月分程度の費用が別に必要となることが多い。



←新聞記事
作成に挑戦

2020年10月～2023年9月までの3年間における日本語・日本文化研修留学生の宿舎入居実績は54名中54名である。

■修了生へのフォローアップ

修了日研生の主たるキャリアパスとして、日本企業・日系企業への就職、大学院進学やその後の教育・研究分野でのキャリア、外交官などが挙げられ、母国と日本をつなぐ架け橋として、グローバルに活躍している。

日研生が本学で修得した単位を母国大学の卒業課程の単位として振替できるよう、修了後に必要な証明書の発行や情報提供を行っている。

修了日研生に対し、日本の大学院への進学のサポートや必要に応じて就職等のための推薦を行っている。

また、修了日研生との日常的な交流を絶やさないように努めており、メールでの連絡を通じた近況把握・アドバイスの実施、修了日研生が渡日した際や担当教員が協定校等を訪問する際の面会などを行っている。本学大学院進学者に対しては後輩に情報を提供する機会を作ることにより、日研生同士のネットワーク作りを手助けしている。更に、修了日研生の出身大学の教員と交流を深めることを通して、ネットワークの強化に努めている。

■問合せ先

<担当部署>

京都大学国際高等教育院附属日本語・日本文化教育センター

担当事務：国際・共通教育推進部留学生支援課日本語教育掛

住所：〒606-8501

京都府京都市吉田二本松町

TEL：+81-(0)75-753-9586 (直通)

FAX：+81-(0)75-753-3316

Email：A30kyomuj@mail2adm.kyoto-u.ac.jp

<ウェブサイト>

京都大学日研生ウェブサイト：

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/education-campus/students2/japanese/toku>

京都大学国際高等教育院：

<https://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/>



京都教育大学 (京都府)

「体験しよう！京都」 Experiencing Kyoto Program at Kyoto University of Education (EKYP at KUE)

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

京都教育大学は、1876年（明治9）年に創設された京都府師範学校を受け継ぎ、146年の歴史と伝統を有しています。

本学は、教員養成単科大学ですが、学部には、教育学、国語、社会、理科、美術、音楽、体育をはじめ、13の専攻がある「教育の総合大学」です。大学院としては、京都の10の大学が連合し資質の高い教師を育てる「連合教職実践研究科」が設置されています。

キャンパスの面積は14万㎡で、緑が多く自然に恵まれています。附属施設として、6つの附属学校、図書館、教育資料館などがあります。



緑の美しいキャンパス
大学内の桜並木は3月末に満開になります。

② 国際交流の実績

大学間交流協定数 6（中国、韓国、カダ、ドイツ等）

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2022年：留学生数 17人、日研生 5人

2021年：留学生数 19人、日研生 9人

2020年：留学生数 6人、日研生 1人

④ 地域の特徴

京都を日本を代表する古都で、世界遺産に選ばれた多くの文化財、豊かな精神文化を有する街です。また、現代的な京都駅ビルの建築やマンガミュージアムも有名です。古い歴史と新しい文化がともに体験できる街だと言えます。

大学のある伏見区は京都市の南部に位置しています。伏見は数々の歴史ドラマの舞台となった街です。とくに酒の産地として有名で、いまでも古い酒蔵が残っています。

大学のすぐ近くには、5月5日の端午の節句の発祥の地である藤森神社や、赤い鳥居が美しい伏見稲荷大社があります。

大学から京都の街の中心部までは電車で15分程度で、交通も大変便利です。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

(a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

教育は文化であり、文化は教育によって継承されます。「体験しよう！京都」は、教育を切り口に日本を体験的に理解することを目的としたプログラムです。

大学での授業を受ける以外に、コミュニティ・ラーニングなどを通じて地域の人々と交流する機会をたくさん準備しています。日本語の実践力を向上させるとともに、教科書の中の日本とはちがう、自分なりの視点から日本に対する理解を深めることができます。

③ 受入定員

11名（大使館推薦10名、大学推薦1名）

④ 受講希望者の資格、条件等

- ・原則として、日本語・日本研究等を専攻する者
- ・日本語能力試験（JLPT）のレベルN3以上に合格している者

⑤ 達成目標

<日本語>

終了時にCEFRまたはJFスタンダードB2に相当するレベル (CEFR: Common European Framework for Reference, JF: Japan Foundation)

<日本文化>

日本文化を理解するための、幅広く、ユニークな観点を獲得する。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2023年 9月下旬～ 2024年 9月下旬
（在籍期間：2023年10月 1日～ 2024年 9月30日）
※授業開始に間に合うよう、2023年9月末日までに来日してください。
※修了式は2024年9月下旬を予定しています。

⑦ 奨学金支給期間

2023年10月 ～ 2024年9月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬：渡日（2021年は10月29日）

9月： オリエンテーション

2月： 国際交流実地見学研修

4月： 個別研究中間発表会

8月： 個別研究修了発表会

9月： 修了式

9月下旬：帰国（2022年は9月30日）

この他にも、伝統文化体験や留学生会主催パーティー（年4回）があります。



国際交流実地見学研修（岐阜県）にて。

⑨ コースの修了要件

以下の修了要件を満たした者には修了証明書を授与します。

- (i) 必須科目（世界の教育60時間、日本語120時間、一般科目180時間以上）の単位修得
※取得した単位については、成績証明書の発行が可能。
- (ii) コミュニティ・ラーニング（活動参加とレポート作成）
- (iii) 個別研究（発表とレポート作成）

●個別研究のテーマ例

「Arduinoに搭載することを目的とした手書き文字認識ニューラルネットワークの構築」
「原子力発電に対する日本人とドイツ人の意識の比較」
「現代日本メディアにて昔話の活用例分析：アニメーション クレヨンしんちゃんを通じて」
「日本における学生運動とアニメの関係」
「日本の昔話 — 今と昔を繋ぐ話」
「現代日本の若者の季節感」
「関西地方における若者の新たな言葉」
「京都におけるLGBTコミュニティの状況」
「京都の祭りの特性と未来：祇園祭を中心に」

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

シラバス

<https://kyoumu.kyokyo-u.ac.jp/jikanwari/index.html>

授業はすべて日本語で行われます。

1) 研修・コース科目の特徴

「教育」という切り口から日本を体験的に理解します。日本人学生と一緒に大学の授業を受ける以外にも、コミュニティ・ラーニング等で交流し、日本に対する理解を深めることができます。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目

- ・世界の教育A 30時間
- ・世界の教育B 30時間
- ・日本語（3つのレベルから選択） 120時間

II) 選択科目

本学学部生向けに開講されている科目のうち「文化・芸術」「日本語学・日本語教育学」「開発教育・国際教育」の各分野から選択した授業の履修分野毎に60時間以上、合計180時間以上

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加できる科目及びその具体的な内容

・コミュニティ・ラーニング

大学のサークルや市民ボランティア活動やに参加しレポートを作成します。日本社会にゲストとしてではなく社会の一員として参加する体験を通じて、日本社会についての理解を深めます。

活動時間 30時間以上

・国際交流実地見学研修

日本人学生といっしょに歴史史跡や文化施設を見学します。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

- ・日本語科目以外は全て正規の大学の授業です。日本人学生といっしょに学びます。
- ・個別研究発表会や研修旅行には日本人学生も参加し質疑を行います。
- ・世界の教育A及びBは、本学の全ての学科の教員が交代で担当し、本学の全留学生と日本人学生も受講します。日本文化について、日本人学生との共修を通じて様々な角度から考える機会になります。

5) その他

授業科目以外に、地域との交流プログラムや京都国際交流協会の国際理解プログラムPICNIKに参加することができます。地域の学校を訪問して自分の国を紹介し、また、京都市内の公立学校で、外国から来て日本語がわからない子どもたちを支援する、「学校通訳ボランティア事業」への登録の紹介も行っています。

⑪ 指導体制

研修生は教育学部に所属し、教育学部教員の指導を受けます。指導教員が推薦したチューターが学習と生活を支援します。

また、プログラム担当教員がプログラム履修全般の相談に対応します。プログラム教員：濱田 麻里・赤松 大輔・岡田 雄樹（国際交流委員会）



学生主催の文化体験。伏見稲荷でお月見。

■宿 舎

本学が管理する国際交流会館に入居することができます。

○家賃

・家賃（5,900円／月）＋共益費（5,700円／月）

入居時に保証金として20,000円が必要です。これは原則、帰国時に返金されます。

○宿舍設備・備品

各居室に冷暖房設備、給湯設備、バス・トイレ、ミニキッチン、家具類が備え付けられています。寝具は必要に応じてレンタル出来ます（約15,000円／年）

○宿舍周辺の生活情報、通学時間

近くにスーパーマーケット、病院、公園等があります。大学まで徒歩で約15分、京都の中心まで約30分です。

■修了生へのフォローアップ

研修終了後も指導教員がメールで相談に応じています。また、修了生同士はSNSで交流を続けています。

これまでの修了生の多くは、研究留学生として再来日しています。日本の大学院で学位を修得した後、母国や日本の大学で教員として後輩を育てています。

企業や官公庁などに就職し、学んだ日本語を使って日本と母国の架け橋として活躍している人もいます。

■問合せ先

<担当部署>

京都教育大学学生課学生支援グループ

住所： 〒612-8522

京都府京都市伏見区深草藤森町1番地

TEL： +81-75-644-8159（直通）

FAX： +81-75-644-8169

Email： intel@kyokyo-u.ac.jp

<ウェブサイト>

京都教育大学：

<https://www.kyokyo-u.ac.jp>

日本語・日本文化研修留学生プログラム「体験しよう！京都」

<https://www.kyokyo-u.ac.jp/student/ehp/to-this/ekyp/>



そったくん

マスコットキャラクター そったくん

そったくんは、禅の教え「啐啄同時」に関係があります。雛鳥が外に出ようと殻を吸う瞬間に母鳥が外からつつくことが大切なことから、教育全般のありかたについての教えになっています。そったくんは、教育者養成を目的とする京都教育大学を象徴化しています。



大阪大学
OSAKA UNIVERSITY

大阪大学 (大阪府)

一人一人への丁寧な指導 ・ 豊富な選択科目 ・ 目的別のコース

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

大阪大学は、1931年に帝国大学として創設された伝統ある大学です。2007年10月、大阪外国語大学と統合し、新しい大阪大学となりました。学生の教育においては、高度の専門性とともに、幅広い学際的視野を身につけた人材を育成することに力を注いでいます。

現在は、総合大学として、11の学部があり、そのほか16研究科、6附置研究所、4附属図書館、2附属病院、30を超える教育研究施設などが置かれています。学生数は約23,300名、教職員数は約7,000名です。

大阪大学には、吹田、豊中、箕面（みのお）の三つのキャンパスがあります。日研生プログラムは箕面キャンパスにある日本語日本文化教育センター（CJLC）を中心として実施しています。

※ CJLCは2021年4月から箕面市船場東地区の新箕面キャンパスに移転しました。

② 国際交流の実績（2022年5月1日現在）

大学間交流協定数 144件、海外留学生数 613人

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2022年：留学生数 2,591人、日研生 63人

2021年：留学生数 2,612人、日研生 57人

2020年：留学生数 2,611人、日研生 36人



伏見稲荷大社見学

④ 地域の特徴

箕面市は大阪府の北部、北摂と呼ばれる地域にあります。「明治の森箕面国定公園」など豊かな自然環境に恵まれています。箕面市の市民が留学生のホストファミリーになって交流する「ホームビジットプログラム」も行われています。



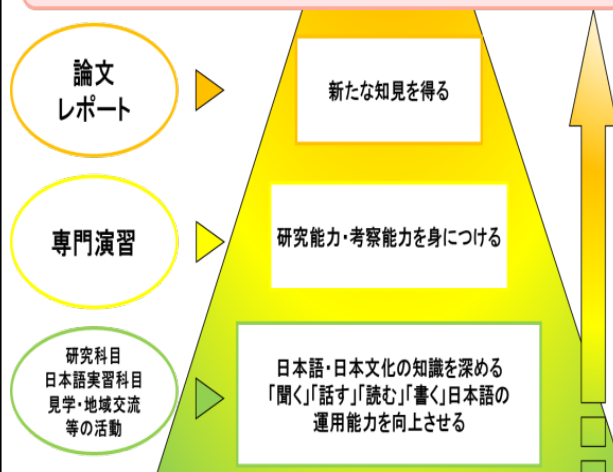
箕面の滝

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

(a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

日本語・日本文化の分野で活躍できる人になる



② 研修・コースの特色

★1対1に近い個別指導

学生には必ずひとりの先生がアドバイザーになります。アドバイザーは勉強や生活に対してアドバイスをするほか、毎週、少人数制の授業をおこないます。その授業では、学生ひとりひとりに対して、テーマにあわせた指導をします。

★自由に選べるたくさんの授業

授業は週に100以上あり、すべて留学生のために準備されたものです。日本語能力を高める授業と、日本語・日本文化についての知識を身につける授業とがあります。学生はレベルや目的にあわせて自由に組み合わせて選ぶことができます。

★目的に合わせた二つのコース

日研生プログラムには二つのコースがあります。

○研究コース：日本語・日本文化について研究することを希望する学生のためのコースです。それぞれの研究分野に関する知識や方法を学ぶ中で、日本語・日本文化を研究するために必要な能力を身につけます。コース修了時に、研究成果について、論文を完成させます。

○研修コース：将来社会で幅広く活躍することを希望する学生のためのコースです。自らの活動報告やグループ・ディスカッションを行った後、学内外研修に参加したりする中で、日本語・日本文化を考察するために必要な能力を身につけます。コース修了時に、研修成果について、レポートを完成させます。

③ 受入定員

60名（大使館推薦40名、大学推薦20名）

④ 受講希望者の資格、条件等

次の条件を満たす留学生が日研生プログラムの受講を希望することができます。

1. 渡日及び帰国時点で外国（日本国以外）の大学の学部在学中、日本語・日本文化に関する分野を専攻していること。
2. 日本語学習歴が2年以上あること。
3. 基本的な日本事情の知識を有すること。

⑤ 達成目標

1. 日本語実習科目の授業を受けて、日本語の運用能力を向上させること。
2. 研究科目の授業を受けて、日本語・日本文化についての知識を深めること。
3. 専門演習科目の指導を受けて、研究・考察能力を身につけること。
4. 研究・研修の成果について、日本語の論文・レポートを作成し、口頭発表できるようになること。

※ 大阪大学の日研生の多くは修了時に日本語能力試験N1合格レベル以上の日本語運用能力に到達しています。

⑥ 研修期間（在籍期間）

2023年9月下旬 ～ 2024年8月中旬
(2023年10月1日 ～ 2024年8月31日)

※ 8月末にZoomでオリエンテーションがあります。

⑦ 奨学金支給期間

2023年10月～2024年8月



紙漉き体験



こんぴら歌舞伎鑑賞

⑧ 研修・年間スケジュール

(2018-19年度実施例)

- | | |
|-----|--|
| 9月 | 渡日（9月下旬） |
| 10月 | チューター・ホストファミリー対面式
秋季留学生歓迎会 |
| 11月 | 大学祭、研修コース見学（酒蔵）
芸能鑑賞会（宝塚歌劇）
見学旅行（一泊二日・永平寺ほか） |
| 1月 | 芸能鑑賞会（歌舞伎）
研修コース見学（空堀商店街） |
| 2月 | 秋～冬学期試験期間
研究/研修コース中間発表会
見学旅行（一日・和菓子作り体験ほか） |
| 3月 | 大相撲観戦 |
| 4月 | 見学旅行（一泊二日・こんぴら歌舞伎ほか）
春季留学生歓迎会 |
| | 研修コース見学（読売新聞大阪本社） |
| 5月 | いちょう祭（大学祭）、チューター対面式
研修コース通訳・翻訳セミナー
修了生講演会 |
| 6月 | 芸能鑑賞会（文楽）
見学旅行（一泊二日・伊勢神宮ほか） |
| 7月 | 春～夏学期試験期間、修了論文・レポート提出
研究コース論文口頭試問 |
| 8月 | 研究/研修コース最終発表会、修了式
帰国（8月中旬頃） |



⑨ コースの修了要件

1. 選択したコースごとに定められた数の必修科目と選択科目を修得すること。
研究コース：必修科目2科目、選択科目18科目以上
研修コース：必修科目2科目、選択科目21科目以上
2. 中間発表会と最終発表会に参加し、発表を行うこと。
3. コース修了時に、研究コースは論文を日本語で作成して提出し、口頭試問に合格すること。
研修コースはレポートを日本語で作成して提出すること。

上記の三つの要件を満たした学生について、CJLC教授会が修了判定を行い、修了した学生には修了証書および成績証明書を発行します。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

CJLCの1年間は、秋～冬学期（10～3月）と春～夏学期（4～8月）の二学期に分けられ、どちらの学期も15週あります。授業はすべて日本語で行われます。ひとつの授業（1コマ）は90分間です。学期のはじめに日本語のプレースメントテストがあり、中級・中上級・上級のレベルに分けられます。

2) 研修・コース開設科目

1) 必須科目・内容

日研生プログラムの必須科目は3種類、必修科目と日本語実習科目、研究科目です。

★必修科目（JDR）

この授業は、ただひとつの必修の授業です。各学期1コマ（30時間）、学生一人一人の研修テーマにあわせて、論文やレポートを作成するための指導をきめ細かくおこないます。これは日研生専用の授業で、大阪大学の日研生プログラムの最大の特色になっています。

修了論文の一例は以下のとおりです。

- ・ 翻訳における役割語
- ・ アニメ・漫画における関西弁
- ・ 日本語と韓国語の温度表現の比較
- ・ 日本語教育におけるアクセント指導について
- ・ 上方落語について
- ・ 日本の大学における怪談話 など

II) 選択科目・内容

★日本語実習科目（1週あたり約60コマの授業を提供）
日本語能力を高めるための授業です。初中級・中級・中上級・上級の4つのレベルにあわせて、少人数で行われます。次の6種類の科目があります。

- 読解、聴解、文章表現、口頭表現、
文法・語彙：文法や文型を中心に、すべての日本語能力の基礎になる語彙力を高めます。
- 漢字・語彙：漢字や漢語を中心に、すべての日本語能力の基礎になる語彙力を高めます。

★研究科目（1週あたり約40コマの授業を提供）

日本を研究対象とした諸研究を行うのに必要な知識や方法論を身につけるための科目です。中上級・上級の2つのレベルがあります。

研究科目の主な開講科目は次の通りです。

日本語学研究：音声学・音韻論/形態論/統語論/

語用論/意味論/類型論/方言/日本語史

日本語教育学研究：教授法/会話分析/

第二言語習得/異文化間コミュニケーション

日本思想文化学研究：伝統文化/宗教文化/民俗学

日本歴史文化学研究：日本史/茶道/日本服装史/

日本美術

日本文献文化学研究：日本文学（古典文学/

近現代文学）/伝統芸能

日本近現代文化学研究：社会学/女性学/比較文化

日本社会文化学研究：経済学/国際関係論

など

「日本語実習科目」と「研究科目」は、各学期とも週に合計100コマ以上あります。その中から、秋～冬学期・春～夏学期あわせて18コマ（540時間）以上を、レベルや目的にあわせて自由に組み合わせ選べます。留学生のために準備された授業がこれだけ多く提供されているのは、大阪大学の日研生プログラムの特色の一つです。

備考：単位認定、単位互換

大阪大学の日研生プログラムでは、単位を取得することができません。

単位認定・単位互換については、成績をもとに学生の出身大学に判断を委ねています。



最終発表会

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

「必修科目」では、実地見学や研修があります。

（例：酒蔵見学・商店街見学・新聞社見学・通訳翻訳セミナーなど）

「研究科目」の授業では、授業の内容に合わせて必要な実地見学を行います。

（例：美術館見学・能楽鑑賞など）

また、日本文化についての理解を深め、日本語能力を高めるために、学内外のさまざまな活動を計画しています。（例：見学旅行・歌舞伎鑑賞・文楽鑑賞など）

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

日本人学生と共に学ぶ授業として、日本文献文化研究（古典文学）が秋～冬学期と春～夏学期の両方で開講されています。また、日本語能力に応じて、春～夏学期に限り、他学部で開講されているいくつかの日本関係の授業も提供しています。

⑪ 指導体制

1. 日研生プログラム担当教員：

佐野方郁、柴田芳成、立川真紀絵、松村薫子

水野亜紀子、山川太

2. 指導体制・学生の所属等：

学生はCJLCに所属します。学生の指導は、上記教員を含むCJLC教員が担当します。

※必要に応じて、日本人チューターが学習を手助けします。

■宿 舎

日研生が入居する寮として、キャンパス内に学生寮（寮費：月額5～6万円程度[注]）があります。寮に入居できない場合は、民間アパート（家賃：月額6万円程度）を紹介しています。

[注] 2022年度現在の金額です。

■修了生へのフォローアップ

CJLCでは、「日研生修了生追跡調査プロジェクト」を組織して、Eメールやフェイスブックを通じて、修了生の近況の把握、情報の蓄積に努めています。修了生の主な進路は、大学院生、大学教員、大使館職員、日本企業勤務などです。

また修了生の必要に応じて、成績証明書・修了証明書を発行しています。そのほか、毎年「修了生講演会」を開催し、本学で大学院生として学んでいる修了生と日本の企業や地方自治体などで働いている修了生を招いて、在校生に修了後の進路についての情報を提供しています。



修了生講演会

■問合せ先



<担当部署>

大阪大学 人文学研究科 質面事務部

日本語日本文化教育センター係

住所：〒562-8678

大阪府箕面市船場東3-5-10

TEL：+81-72-730-5075（直通）

FAX：+81-72-730-5074

Email：cjlcc@office.osaka-u.ac.jp

<ウェブサイト>

大阪大学のウェブサイト

<https://www.osaka-u.ac.jp/>

大阪大学日本語日本文化教育センター（CJLC）のウェブサイト

<https://www.cjlc.osaka-u.ac.jp/japanese/>

<https://www.cjlc.osaka-u.ac.jp/>

大阪大学の日研生プログラムのホームページ

<https://www.cjlc.osaka-u.ac.jp/japanese/program/j/>



大阪教育大学 (大阪府)

個性豊かな大阪の文化を感じながら、日本語を学んでみませんか

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

大阪教育大学は約150年の歴史と伝統を有する、日本で有数の教育大学です。教員養成課程と教育協働学科があり、すぐれた指導力を持つ教員や、社会の発展に貢献し得る人材の育成を行っています。

柏原キャンパスと天王寺キャンパスがあり、大阪府内に11の附属学校園があります。大学院（教育学研究科・修士課程）は3コースからなります。

メインキャンパスである柏原キャンパスは、大阪府東部・柏原市内の金剛生駒紀泉国定公園の中にあります。柏原市は緑豊かな山並みと美しい自然環境、そして古い歴史を持つ町です。柏原キャンパスから大阪市の中心部までは、電車で約30分です。



② 国際交流の実績

2022年10月1日現在、本学には239名の留学生在学しています。また、現在中国、韓国、台湾、ベトナム、アメリカ、オーストラリア、ドイツ、フランス、スウェーデン、フィンランド、スイス、キルギス、クロアチアの35大学と学生交流協定を結んでおり、毎年、交換留学生の受け入れ・派遣を活発に行っています。

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2022年：留学生数239人、日研生11人

2021年：留学生数215人、日研生7人

2020年：留学生数185人、日研生9人

④ 地域の特徴

大阪の文化力

西日本は独特の文化を発展させてきましたが、大阪はその中心都市と言えます。大阪は日本の伝統文化を守り育て、現在も日本文化に強力な影響を与え続けています。大阪教育大学で勉強しながら大阪の文化力に触れてみませんか？

大阪弁

大阪で話される方言は大阪弁と呼ばれ、力強くしかしとても温かく心に響きます。また、マンガやテレビドラマの中で、エネルギーでユーモラスな大阪人の特徴として使用されることも少なくありません。そのため、大阪弁は日本人だけでなく留学生にもとても人気があります。大阪教育大学の留学生はもちろん標準的な日本語を勉強しますが、キャンパスの内外で大阪弁を聞く機会がたくさんありますので、大阪弁の特徴も学ぶことができます。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

b) 主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

(1) 日本語

日本語レベルに応じて必要な科目を受講し、日本語能力を高めることができます。

(2) 日本文化

日本の文化や社会、大阪や関西に対する理解を深めるための科目が充実しています。

(3) 個人研究

学生の希望や専門分野に応じて指導教員の指導のもと、修了レポートを書きます。

(4) 文化体験・文化交流

関西、西日本地区での文化研修が1年に2回実施されます。本学の学生との交流、地域の学校やボランティア団体との交流も活発に行われ、様々な活動に参加することができます。



③ 受入定員

20名（大使館推薦15名、大学推薦5名）

④ 受講希望者の資格、条件等

- ・日本語能力試験N2相当以上の日本語力があることが望ましい。

⑤ 達成目標

- ・日本語で修了レポート作成・発表をし、学術的な内容を的確に表現できるようになること。
- ・関西を中心に日本の文化を深く理解すること。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2023年9月下旬 ～ 2024年8月下旬
（在籍期間：2023年10月1日 ～ 2024年9月30日）

⑦ 奨学金支給期間

2023年10月 ～ 2024年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬：渡日（2022年は9月27日渡日）
オリエンテーション

10月：後期授業開始

新入留学生歓迎パーティ

11月：ホームビジット

秋季日本文化研修

2月上旬：後期授業終了

2月：日本文化を楽しむ会

4月：前期授業開始

修了レポートテーマ決定

6月：春季日本文化研修

7月：修了レポート提出

8月：前期授業終了

修了レポート発表会

修了式

8月下旬：帰国



⑨ コースの修了要件

- ・各学期、9科目以上の授業の履修が必須です。
- ・「日本語科目」「日本文化に関する科目」のほか、日本人学生のための授業の中からグローバルセンターの日研生担当教員の指導に従い受講科目を決めます。
- ・春学期には「日本文化研究」が必修科目で、修了レポートを作成し、発表します。

以上の要件を満たした場合、修了証が授与されます。
プログラム修了後に成績証明書も発行されます。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

- ・日本語レベルに応じた日本語科目や日本文化に関する科目を受講することができます。
- ・日本語力が十分であると認められる場合、日本人学生のための授業も受講できます。
- ・1科目は90分15回の授業からなります。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目

「日本文化研究」が必修科目です。修了レポートを作成しその内容を発表することによって2単位取得できます。

II) 日本語科目

科目名	単位数	
	秋	春
日本語 I a, b	1	1
日本語 II a, b	2	2
日本語中上級総合 I, II	2	2
日本語中上級読解 I, II	2	2
日本語中上級漢字 I, II	2	2
時事日本語 I, II	2	2
日本語中級会話 I, II	2	2
日本語中級読解 I, II	2	2
日本語中級漢字 I, II	2	2
日本語中級作文 I, II	2	2

III) 日本文化に関する科目

科目名	単位数	
	秋	春
日本文化研究	—	2
関西発見プロジェクト I, II	2	2
文化交流実践研究 I, II	2	2
日本の伝統文化 I, II	2	2
日本の社会と文化 I, II	2	2
日本近世文化史	2	—
日本近現代史	—	2
日本古代文化史	—	2
経済の目で見える地域と暮らし	—	2
日本近代文学読解入門	2	—
国際理解	2	—
日本事情	—	2

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

・「関西発見プロジェクト I, II」は講義と学外見学、フィールドワークを通して関西の地域社会や文化の特徴を学びます。

・「文化交流実践研究 I, II」は地域内の小学校で文化紹介・交流活動を行い、日本の社会や文化、教育について理解を深めます。

・「日本の伝統文化 I, II」は学内の専門分野の教員が担当し、剣道、柔道、陶芸、書道などを学びます。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

・「国際理解」「日本事情」「アジア理解教育」など、ディスカッションやグループワークを通じて日本人学生とともに学ぶ授業があります。

・本学には以下のような専攻・コースがあり、指導教員と相談した上で、専門にあった授業を受けることができます。

➢日本文学・日本語学・日本語教育を学びたい方

グローバル教育専攻 多文化リテラシーコース

➢日本の教育について学びたい方

教員養成課程

➢音楽・美術が好きな方

芸術表現専攻 音楽表現コース、美術表現コース

⑪ 指導体制

● グローバルセンター

グローバルセンターの日研究生担当教員が主に日本語・日本文化研修留学生プログラムのコーディネートをしします。また、授業や日本での生活についての助言をしします。

● 指導教員

指導教員が授業の履修や修了レポートについて指導しします。指導教員は本学の教員養成課程、教育協働学科の教員から、各学生の興味関心を考慮して選定されます。

● チューター制度

チューター学生が留学生を一对一で支援しします。学習や日常生活での助言を行い、留学中の生活をサポートしします。



■ 宿 舎

柏原キャンパス内と近隣地区の大阪府八尾市に留学生のための宿舎があります。日本語・日本文化研修留学生には、大阪府八尾市の山本国際学生宿舎3号棟の部屋が優先的に割り当てられます。

<山本国際学生宿舎3号棟>

*3DKの部屋を3人でルームシェアし、1人ずつ個室に住みます。

○設備・備品:

(居室) 机・椅子・エアコン・本棚・寝具(レンタル)
(共用) キッチン・バス・トイレ・冷蔵庫・電子レンジ・テレビ・洗濯機・洗面台

○宿舎費(毎月): A: 28,500円 / B: 27,400円 / C: 26,200円

*インターネット代・寝具レンタル代・光熱水費・共益費等すべて含まれます。

*金額は部屋タイプ(A, B, C)により異なります。

○デポジット: 1か月分の寮費(入居時に必要)

○退去時清掃代: 30,000円(入居時に必要)

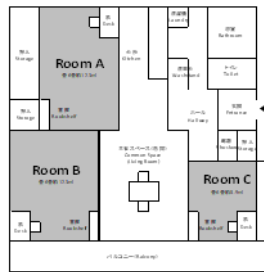
○特色: レジデント・アシスタント(寮に住み、日々の生活を支援する学生)と管理人が、皆さんのサポートにあたります。

*レジデント・アシスタントとは一部の住居で混住となります。

○収容定員: 21名(7戸室)

○所在地: 〒581-0013

大阪府八尾市山本町南7-9 大阪教育大学山本宿舎
近鉄大阪線「高安」駅徒歩約5分



■ 修了生へのフォローアップ

● 修了後の進路

本学で日本語・日本文化研修生として学んだ留学生は、帰国して母国の大学を卒業した後、国費留学生として再び日本で留学したり、日本語力を活用して企業等に就職したりしています。

● 修了後の情報提供

本学グローバルセンターではホームページ・Facebook等を通して修了生に情報を発信し、コミュニケーションを行っています。



■ 問合せ先

<担当部署>

大阪教育大学学術部学術連携課国際室留学生係

住所: 〒582-8582
大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1

TEL: +81-(0) 72-978-3300 (直通)
FAX: +81-(0) 72-978-3554
Email: ryugaku@bur.osaka-kyoiku.ac.jp

<ウェブサイト>

大阪教育大学グローバルセンター:
<https://ger.osaka-kyoiku.ac.jp/>
大阪教育大学:
<https://osaka-kyoiku.ac.jp>



神戸大学 (兵庫県)

日本の国際化の原点、神戸で学ぶ日本文化

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1) 歴史と特色

神戸大学は、1902(明治35)年に高等教育機関として設置された神戸高等商業学校を創立の起点としており、120年を超える歴史をもつ国立大学法人です。

「人文・人間科学系」「社会科学系」「自然科学系」、「生命・医学系」の4大学術系列の下に10の学部、15の大学院、1研究所と多数のセンターを持つ日本有数の総合大学であり、先進的で充実した教育・研究環境を備えています。

「真摯・自由・協同」の理念の下、人類社会の貢献に資する普遍的価値を有する「知」を創造するとともに、人間性豊かな指導的人材を育成することを目指しており、国際都市として開放性に富む神戸の文化や環境を活かした異文化との交流も重視しています。

2) 教職員・学生数等(2022年5月現在)

- ・教員数：1,556名
 - ・学生数：学部学生 11,426名
大学院学生 4,444名
計 15,870名
- 〈内留学生数 1,229名(84ヵ国・地域)〉

② 国際交流の実績(2022年5月現在)

海外の基幹大学との学術交流や留学生の交換を積極的に進めており、世界64ヵ国・地域の著名な大学や研究所など、375機関と学術交流協定を結んでいます。

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生(日研生)の受入れ実績

2022年：留学生数 1,229人、日研生 4人
2021年：留学生数 1,179人、日研生 7人
2020年：留学生数 1,227人、日研生 1人



④ 地域の特徴

神戸大学の所在地である神戸市は、1868年に兵庫港として開港以来、国際貿易の拠点として栄え、海外から多くの人や文化を受入れ、海と山に囲まれた国際都市として発展してきました。

また、神戸市は兵庫県の県庁所在地として、地方の行政、経済、文化、教育の中心的役割を担い、国内でも有数の大都市です。

■研修・コースの概要

① 研修・コース目的

(a)主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

高度な日本語を学ぶ中で、研修旅行や地域の教育機関や文化施設への見学、文化行事への参加などを

体験し、様々なアプローチで日本を学ぶことが可能です。また、日本人学生と共に行う交流事業等において相互の国際感覚を養うことができます。

③ 受入定員

10名(大使館推薦5名、大学推薦5名)

④ 受講希望者の資格、条件等

- ・身分及び専攻
外国(日本国以外)の大学に在籍し、日本語・日本文化を主専攻として履修している学部学生。(ただし、1年次生を除く)
- ・日本語能力及び学業成績
すでに基礎的な日本語の学習を修了し、本学において日本語で行われる日本語・日本文化等に関する授業を受講できる日本語能力(日本国際教育支援協会が実施する「日本語能力試験2級」(新基準「N2」以上)を有する者で、在籍する大学における学業成績が上位の者。
- ・その他
大学推薦による受入れは、本学と学術交流協定締結大学からの受入れを優先します。

⑤ 達成目標

日本語の教育研究者、日本語通訳者・翻訳者あるいは日本学に関する教育研究者・専門家を目指す留学生に対して、高度な日本語能力と日本文化についての深い知識と理解が得られる教育環境を提供し、習得することを目的としています。

⑥ 研修期間(在籍期間)

研修期間：2023年9月下旬～2024年8月下旬
(在籍期間：2023年10月1日～2024年8月31日)

⑦ 奨学金支給期間

2023年10月 ～ 2024年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬： 渡日

10月： オリエンテーション

日本語・日本文化研修開始

11月： 日本文化体験旅行

12月： 国際学生交流シンポジウム

・日本人学生との交流シンポジウム

2月： 日本文化体験旅行（自由参加）

日本の冬を体験するイベント

6月： 地域研修旅行

日本の文化に触れる研修旅行

7月： 課題研究の報告書作成

8月： 日本語・日本文化研修修了

日研生プログラム修了式・送別会

8月下旬： 帰国

⑨ コースの修了要件

秋学期・春学期を通じて、必修科目(120時間)と選択科目(300時間以上)の合わせて420時間以上の修得及び研究課題の発表を修了要件としており、この要件を満たした者に修了証書を授与します。

修了判定に当たっては、グローバル教育センター教員による判定会議で総合的に判定されます。

なお、単位の付与はできませんが、各学期末に成績証明書を交付します。また、留学生の在籍する大学から照会があった場合には、授業内容や成績に関する資料の提供に応じます。



日本語・日本文化研修留学生修了式

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

研修科目は、日本語・日本文化に関する研究を行い、修了レポート作成につなげるための「課題研究」と、日本語能力を高めるための日本語科目、そして日本事情・日本文化及びその関連領域について学べる専門科目や、日本人学生との共修科目から成ります。このうち、「課題研究」と、日本語科目の作文科目（中上級または上級レベル）を必修科目とし、他の科目は研修生の日本語能力や関心に応じて自由に選択できる、選択科目です。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目（120時間）

・課題研究（後期30時間、前期30時間）

学期ごとに所定のテーマについて学びながら、担当教員の指導の下に自らの関心に従って研究を行い、その成果を発表し、修了レポートを作成します。各学期のテーマは下記を予定しています。

秋学期のテーマ：ジェンダー問題

日本の社会・文化に関する理解を深めるために、自国と日本のジェンダー問題について資料を収集し、日研生同士のディスカッションを通じて両国の比較をした結果を国際人間科学部の授業「男女共同参画とジェンダー」において、日本人の学部学生に発表してから、意見交換を行います。

春学期のテーマ：地域研究

関心のあるテーマを設定し、自律的に資料の収集・分析・考察を行います。毎週、日研生同士により発表し、意見交換を行い、中間発表・最終発表を経て、研究成果を修了レポートとしてまとめます。

・日本語作文科目（後期30時間、前期30時間）

課題研究の修了レポートを書き上げるために、文章作成技術を学ぶ科目を必修としており、

- ・「日本語I A/B」
 - ・「日本語V A/B」
 - ・「日本語作文中上級A/B」
- の中から履修することが必要です。

II) 選択科目（300時間以上）

研修の大きな特徴は、グローバル教育センターが提供する日本語科目も、文学部・国際人間科学部が提供する日本事情・日本文化に関する科目も履修できることです。

・日本語科目

基本的にレベルごとに技能・目的別に開講されています。研修生のレベルに応じて、中級から上級レベルの科目を自由に履修できます。

日本語運用能力を補強することを目的として、文法、会話表現、読解、文章表現、漢字語彙と技能別に学習します。上級では学術的なトピックを中心とした日本語学習を通して、大学において教育・研究を円滑に進めることのできる日本語運用能力を習得できます。

過去に日研生が履修した日本語科目（例）

- 集中日本語（中級・中上級）
- 聴解・会話・読解・作文・文法
- 日本語特別演習（N2・N1対策）
- 日本語特別演習（ビジネス日本語）

・日本事情・日本文化関連専門科目

主として本学の文学部・国際人間科学部で開講されている、日本事情・日本文化に関連する専門科目の中から、研修生各自の問題意識・関心に応じて履修できます。これらの科目の履修により、日本文化に関する知識を深めるとともに、日本語・日本文化の修得に必要な方法論・技能等を習得し、日本語・日本文化研究のための基礎を養うことができます。

文学部では、人間が作り上げてきた文化に対する好奇心を高め、多様な角度から人間存在の深みに光をあてる教育研究を行っています。国際人間科学部では、様々な専門分野からグローバルイシューの構造を明らかにし、多様な境界線を越えて人々と自在にコミュニケーションを取り、課題の共有と解決に向けてリーダーシップを発揮できる「協働型グローバル人材」を社会に輩出することを目指します。

過去に日研生が履修した専門科目（例）

文学部

日本社会文化演習・国文学特殊講義・社会学特殊講義・心理学特殊講義

国際人間科学部

グローバルコミュニケーション基礎演習・グローバル化と現代世界・翻訳コミュニケーション論

※他学部の授業も聴講できる可能性があります。

3) 見学、地域交流等の参加型科目

科目としての見学、地域交流等はありませんが、任意参加で各種イベント、シンポジウム、研修があるので、積極的に参加することをお勧めします。

4) 日本人学生との共修等の機会



グローバルリーダーシップ育成基礎演習科目

日本人学生との共修科目である「グローバルリーダーシップ育成基礎演習科目」もあります。この科目では、12月に行われる日本語・英語のバイリンガルによる神戸大学国際学生交流シンポジウムの企画・運営に携わることを通じて、グローバル人材としての素養を身に付けることができます。

本授業の到達目標：

・複眼的に思考する能力：日本語・英語、その他の言語の文献・資料、映像等を検証し、新型コロナウイルス感染症がもたらしている様々な社会的課題を多様な視点から捉え直します。

・多様性と地球的課題を理解する能力：シンポジウムのテーマについて多様な視点から理解を深め、個々の専門分野の特性を活かしながらどのようにリーダーシップを発揮していくことが可能なのか考究します。

・協働して実践する能力：学部や専門、出身国（地域）が異なる者同士が協働で研究課題に取り組むことを通じて、プロジェクト遂行のために良好な人間関係を構築し、「協働する姿勢・能力」を身に付けます。

⑪ 指導体制

・日研生担当教員のリチャード・ハリソン教授が当プログラム全体を統括します。

a. 学業面

コース期間を通して「課題研究」の指導を行います。

b. 生活面

コース期間を通して、上記の日研生担当教員及びグローバル教育センター（相談指導ユニット）の専任教員2名が必要に応じて相談業務に当たります。

*相談指導ユニット専任教員

- ・河合 成雄 教授
- ・黒田 千晴 准教授

■宿 舎

神戸大学では、留学生数の増加に伴い、希望者全員が大学の留学生用宿舎に入居できるとは限りません。なお、大学では夫婦・家族室については用意できません。

- ・入居期間は11ヶ月間です。
- ・寄宿料：月額 4,700円～21,000円(2022年度)
宿舎によっては、共益費等が必要な場合があります。
- ・宿舎により異なりますが、机、イス、ベッド、冷蔵庫、洗濯機等が備わっています。
- ・通学時間は、電車等を利用して30～50分です。
- ・その他（光熱水費等は各自で負担となります。）

■修了生へのフォローアップ

修了生には、本学の海外同窓会ネットワークへの加入（登録）を呼びかけ、本学の各種情報をお知らせすると共に進学や就職に関する相談などのキャリアサポートも行っています。さらに、同窓生間の情報交換に役立てています。

日研生プログラムを修了した留学生が、在学する大学を卒業後に日本の大学院への進学を考える機会を提供します。

本学を修了した118名のうち、半数以上が日本企業や日本関連の仕事に就き、10名以上が、日本の大学院に進学しています。

Facebook: Kobe University International Alumni Association

<https://www.facebook.com/KobeUniversityInternationalAlumni>

■問合せ先

神戸大学学務部国際交流課留学生交流グループ

住 所：〒 657-8501
兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1

TEL： +81-78-803-5263（直通）

FAX： +81-78-803-5289

E-mail: stdnt-kokuhi@office.kobe-u.ac.jp

実施担当：

グローバル教育センター（日本語等教育ユニット）

E-mail: harrison@kobe-u.ac.jp

神戸大学HP：

<http://www.kobe-u.ac.jp>

神戸大学大学教育推進機構グローバル教育センターHP：

<http://www.gec.iphe.kobe-u.ac.jp/>

Facebook：

Kobe University Global Education Center

<https://www.facebook.com/KobeUniversityInternationalStudentCenter?ref=hl%2F>